

基礎演習 I

担当教員 平良 直之・大井 肇・又吉 光邦

配当年次 1年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

本演習では、まず、産業情報（経済・経営・情報技術）に関する新聞記事、雑誌、文献を通じて、情報処理システムの役割について議論を行う。また、いくつかの文献およびウェブサイトを指定したレポート作成を課題とすることで、文章読解能力やレポート作成能力を養成する。さらに、システム開発に必要な基礎知識の習得を目指す。

【授業の展開計画】

本演習では、論理的な思考能力の養成、レポート作成の基本的な技能の修得、視覚的なプレゼンテーション技術の修得を目指す。具体的には、個別テーマに基づいた、レポート作成からプレゼンテーション資料の作成、発表会を通じて、議論を交わし情報処理システムに関する理解を深め、2年次以降の専門科目の学習に備える。

また、システム設計やプログラミングに関する基礎的な技能の修得も目指す。プログラミングにおいてはJava言語を主に取りあげ、受講生の主体的な参加を前提に演習を進めていく。

なお、具体的な授業計画については、講義開始時に各担当者から発表する（担当者により若干内容が異なる）。

【履修上の注意事項】

演習科目のため原則として皆出席を求める（欠席が多い場合には不可となる）。実習を含む内容なので、パソコン教室での講義となる。私語や欠席の多いものは講義途中で不可を通達する場合がある。

学籍番号毎にクラスが割り当てられるので注意すること（割り当てられたクラス以外での受講は基本的に認めない）。また、この演習の単位を取得していない場合は、2年次の専門演習 I（必修科目）が登録できない可能性もあるため最大限の注意が必要である。

【評価方法】

評価は出席状況、レポート、授業態度等を総合的に判断する。

【テキスト】

開講時に指定する。

【参考文献】

開講時に指定する。

基礎演習Ⅱ

担当教員 池宮城尚也・ 兪 炳強

配当年次 1年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

基礎演習Ⅱの目的は、産業情報分野における基礎学力を身に着けることである。具体的には、産業や経済に関する資料・統計を利用して表計算・統計ソフト(Microsoft Excel等)の操作実習を行い、分析結果を解釈する方法を学んでいく。これらの学習を行いながら、文章読解能力、レポート作成能力、プレゼンテーション能力を養成する。受講生が、2年次以降の産業情報分野における履修内容をイメージできるような授業の展開を目指す。

【授業の展開計画】

- (1) 統計分析・経済学の基礎：産業情報分野の学習について
- (2) 産業情報分野の資料・統計の利用方法と理解
- (3) 表計算・統計ソフトの操作方法
- (4) 分析結果の解釈
- (5) 文章読解能力、レポート作成能力、プレゼンテーション能力の養成

なお、具体的な授業の展開計画・内容は、担当者により若干異なるため、第1回講義の際に通知する。

【履修上の注意事項】

- (1) 学籍番号によるクラス割り当てを厳守すること。
- (2) 演習科目のため、原則として皆出席を要求する。
- (3) 私語や欠席が多い受講生は、講義期間中に不可を通達する場合がある。
- (4) 基礎演習Ⅱの単位を取得しない場合、専門演習Ⅰ(必修科目)の登録をはじめとする2年次以降の履修に支障をきたす場合があるので、注意すること。

【評価方法】

出席状況、レポート、講義態度等により、総合的に評価する。

【テキスト】

第1回講義の際に通知する。

【参考文献】

第1回講義の際に通知する。

経済学概論

担当教員 前村 昌健

配当年次 1年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

経済学は、希少な資源（土地、資本、労働力など）を用いてモノやサービスを生産し、人間の福利を高め、経済社会の発展に結びつけるかを探求する学問です。私たちの抱える経済問題は、基本的には市場を通じて解決されますが、市場はすべてのことを解決できるほど万能ではありません。今日、経済の国際化、情報化、環境に関連する課題が浮かび上がってきています。講義では、経済学の基本的な考え方を学び、現実の課題に対して経済学からどのように捉えるのかについて取り上げる予定です。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	経済学について①
2	経済学について②
3	マクロ経済学の基礎①
4	マクロ経済学の基礎②
5	有効需要と乗数メカニズム
6	貨幣の機能について
7	財政政策と金融政策①
8	財政政策と金融政策②
9	ミクロ経済学の基礎①
10	ミクロ経済学の基礎②
11	消費者行動と経済
12	企業行動と経済
13	情報と経済①
14	情報と経済②
15	地域経済の課題
16	

【履修上の注意事項】

講義の第一回目に履修上の注意事項を説明します。
テキストは、必ず履修上の注意を聞いてから購入してください。

【評価方法】

成績評価は、出席状況、課題レポートの提出状況、期末試験の結果を基に行います。

【テキスト】

テキストについては、最初の講義の時間に連絡しますので、確認してから購入してください。

【参考文献】

①「入門経済学」伊藤元重、日本評論社、③「入門経済学」ジョセフ・E・スティグリッツ著、藪下史郎他訳、東洋経済、③「入門経済学」N・グレゴリー・マンキュー、東洋経済新報社

経済数学 I

担当教員 池宮城 尚也

配当年次 1年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

経済数学 I の目的は、高校数学 I・A と、産業情報学科で利用される数学の考え方・計算方法を接続させることである。2 年次以降の専門科目を受講するための基礎学力を養成したい。数学を苦手にする学生が多いが、苦手意識にとらわれず、問題の数値を公式に丁寧にあてはることからはじめてほしい。数学を学ぶ際のノート記述や、問題を解く際の計算プロセス記述を積み重ねていくことで、数学に対する苦手意識が克服できると考えている。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	産業情報と数学：イントロダクション
2	式と計算①
3	式と計算②
4	直線と 1 次関数
5	2 次関数と最大・最小①
6	2 次関数と最大・最小②
7	2 次不等式
8	分数関数・平方根の関数
9	指数関数と対数関数
10	まとめと問題練習 1
11	個数の処理と確率①
12	個数の処理と確率②
13	やさしい微分法①
14	やさしい微分法②
15	まとめと問題練習 2 16 回目に期末試験を行う。
16	

【履修上の注意事項】

練習問題のプリントを毎回配布するので、受講生は各自で学習すること。

【評価方法】

出席、提出物、試験等により、総合的に評価する。

【テキスト】

木村哲三・浦田健二『経済学を学ぶための基礎数学』同文館出版，2004年。

【参考文献】

水野勝之『入門編 テキスト経済数学』中央経済社，2000年。

経済数学Ⅱ

担当教員 池宮城 尚也

配当年次 1年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

経済数学Ⅱの目的は、2年次以降の専門科目で利用される数学的表現・分析方法を身につけることである。専門科目で学習する産業情報の分析ツールを使いこなすには、本講義レベルの数学的理解は不可欠である。経済数学Ⅰに比べて高度な学習内容になるが、丁寧に計算をする習慣を身につければ、必ずしも難解にはならない。講義を通じて、新しい学習内容が出てくるのは計算全体の一部で、基本計算を丁寧に実行するところが大部分であることに気づいてもらいたい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	産業情報と数学：イントロダクション
2	微分の基本計算
3	微分の概念
4	微分法の公式と計算
5	1変数関数の極大・極小
6	偏微分と全微分①
7	偏微分と全微分②
8	偏微分と全微分③
9	まとめと問題練習 1
10	線形代数の基礎①
11	線形代数の基礎②
12	行列式と固有値①
13	行列式と固有値②
14	行列式と固有値③
15	まとめと問題練習 2 16回目に期末試験を行なう。
16	

【履修上の注意事項】

練習問題のプリントを毎回配布するので、受講生は各自で学習すること。

【評価方法】

出席，提出物，試験等により，総合的に評価する。

【テキスト】

教科書は使用しない。講義ノート・練習問題のプリントを配布して解説する。

【参考文献】

- [1] 浅利一郎・山下隆之『はじめよう 経済数学』日本評論社，2003年。
 [2] 三土修平『初歩からの経済数学(第2版)』日本評論社，2001年。

コンピュータグラフィックス

担当教員 佐久本 邦華

配当年次 1年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

本科目は、マルチメディアを活用した表現・処理に関する知識・技術を習得する科目である。作品制作を通し、企画力や構成力、表現力など、情報を視覚的、かつ効果的に活用することができる基礎的な知識と技術の習得を目指す。実際には、PhotoshopやIllustratorなどの画像処理ソフトや図形処理ソフトによる静止画の設計・制作を通し、視覚性・視認性の高いコンピュータグラフィックスの作品を制作する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス／Illustrator基本操作および基本図形の描画
2	Illustratorオブジェクトの塗りと線／パスの作成と編集
3	Illustratorオブジェクトの編集
4	Illustratorイラストの作成
5	Illustratorオリジナル作品制作
6	Illustratorオリジナル作品制作
7	Photoshopペイントツール
8	Photoshop選択範囲作成と画像補整
9	Photoshop色調補整とフィルタ機能
10	Photoshop画像の合成
11	Photoshopロゴの作成
12	WEB素材作成（ImageReadyとの連携によるWEB素材の作成方法）
13	Photoshop最終課題制作
14	Photoshop最終課題制作
15	作品完成と批評会
16	

【履修上の注意事項】

- (1) おしゃべり・課題未提出者は、不可とする。
- (2) 期末試験はなく、学期を通してオリジナルの作品を複数製作・公開し、それが評価の対象となる。

☆産業情報学科情報戦略コースを優先。

【評価方法】

【テキスト】

『CGリテラシー Photoshop & Illustrator CS2 for Windows』
CD-ROM付 実教出版

【参考文献】

『Photoshopスーパーリファレンス』、株式会社ソーテック社。

産業情報論

担当教員 砂川 徹夫

配当年次 1年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

本講義では、産業分野で情報通信技術や情報システム等がどのように活用され、産業構造や産業の仕組みにどのように影響を及ぼしているか、また、産業分野の情報化を支える情報通信や情報サービス等の情報産業の構造と技術動向、人材ニーズ、情報化の進展に伴い新たに重要性が増してきた情報モラルとプライバシー保護、知的所有権、セキュリティ管理等、産業の情報化及び情報の産業化に伴う現状や動向等について概観し、理解させる。

【授業の展開計画】

- 1 週目 産業情報論で何を学ぶのか
- 2 週目 情報化の進展と社会の関わり
- 3 週目 情報化の進展と産業社会の構造変化
- 4 週目 卸・小売・物流業界の情報化（POSシステム、EOS、SCM等）
- 5 週目 金融・サービス業界の情報化（CRM、IR/PR等）
- 6 週目 建設業界の情報化（CAL S）
- 7 週目 製造業界の情報化（CAD/CAM、SCM、BTO、CPFR等）
- 8 週目 IT化と産業構造・企業経営の変革動向
- 9 週目 IT化と市場・消費者行動の変革動向（EC市場、BtoC、CtoC等）
- 10週目 情報産業の発展と社会（1）情報産業の構造と市場
- 11週目 情報産業の発展と社会（2）情報産業の技術と人材ニーズ
- 12週目 情報化と新たなビジネスモデル（特許、知的所有権等）
- 13週目 情報化基盤と新技術の動向（モバイル化、WEB化、セキュリティ・認証等）
- 14週目 情報化基盤と周辺環境の動向（情報モラル、プライバシー保護、セキュリティ管理等）
- 15週目 期末試験

【履修上の注意事項】

黒板への板書はできるだけせず、PCスライドやOHPを用いて講義を進める。重要な内容は各自メモすること。また、情報化の進展は秒進分歩。常に新聞記事に目を通し、情報関連の最新情報を収集すること。

【評価方法】

評価は出席、学期末試験、課題提出等を勘案して行う。

【テキスト】

砂川徹夫『産業情報論』、日本情報処理開発協会編『情報化白書』、新聞記事 等

【参考文献】

情報化と法

担当教員 有賀 俊二

配当年次 1年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

インターネットに代表されるコンピュータ・ネットワークの急速な発達、今日の経済社会の情報化を益々加速させ、大きな変化をもたらしている。このような急速な情報化に伴う経済社会の変化に対して法的な対応の問題や情報モラルの問題が鮮明となってきている。本講義では、情報化と法についての理解を深めるために、情報化の進展に伴い惹起されている知的所有権やプライバシー保護といった様々な法的問題とモラルの問題について取り上げ、これらの問題への対応及び望ましい法さらにモラルのあり方について検討していく。

【授業の展開計画】

- 1週目：情報化の進展と社会の変化
- 2週目：情報化と法のかかわり(1)
- 3週目：情報化と法のかかわり(2)
- 4週目：情報化と知的所有権(1)：知的所有権の概要
- 5週目：情報化と知的所有権(2)：工業所有権、著作権等について
- 6週目：電子商取引の法的問題(1)：電子商取引の概念と関係法の概要
- 7週目：電子商取引の法的問題(2)：電子商取引促進と法制度の充実
- 8週目：情報公開制度と企業情報開示の問題
- 9週目：個人情報保護(1)：プライバシー保護の意義とパブリシティ
- 10週目：個人情報保護(2)：ネット社会における個人情報保護の課題
- 11週目：情報モラルと法的対応(1)：情報モラルとサイバー犯罪の発生
- 12週目：情報モラルと法的対応(2)：情報モラルと法規制
- 13週目：情報化と法的問題の事例(1)
- 14週目：情報化と法的問題の事例(2)
- 15週目：期末試験

テキスト・参考文献

- (1)清水幸雄編：『情報と法』中央経済社(1998)
- (2)堀部政男編：『インターネット社会と法』(2003)
- (3)石村善治、堀部政男：『情報法入門』(1999)
- (4)『六法全書』有斐閣(最新版)
- (5)『情報と法』岩波書店(1997)

【履修上の注意事項】

- (1)講義では、基本的な法令について説明するので必ず法令集(六法全書)で確認すること。またインターネット上で関連法令条文は閲覧可能である。
- (2)他の法律関連科目を履修することが望ましい。

【評価方法】

成績表は、出席、受講態度、レポート、期末試験に基づいて総合的に評価する。

【テキスト】

【参考文献】

情報処理概論

担当教員 大井 肇

配当年次 1年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

本講義では、情報処理技術の基礎的な内容を幅広く取り扱う。主な項目としては、まず、情報処理の概念とコンピュータの発展の過程について学び、次に、コンピュータのハードウェアおよびソフトウェアの構造と動作原理を理解する。さらに、ネットワークシステムと通信技術のデータベースシステムにおけるデータの基本構造とファイル編成法等を通して利用形態から見たコンピュータシステム全般に関する理解を深める。また、情報処理システムが社会に与えた功罪を整理しながら、セキュリティシステムや暗号化技術についても概説する。

【授業の展開計画】

- 1週目 情報処理の概念とコンピュータ
- 2週目 コンピュータの歴史
- 3週目 コンピュータの基本表現：単位、文字コード、N進数、アナログとデジタル
- 4週目 コンピュータの原理：論理回路
- 5週目 ハードウェア(1)：CPUのしくみと役割
- 6週目 ハードウェア(2)：記憶装置と記憶メディア
- 7週目 ハードウェア(3)：入出力装置と入出力インターフェイス
- 8週目 ソフトウェア(1)：オペレーティングシステム
- 9週目 ソフトウェア(2)：ビジネスアプリケーション、フリーウェア
- 10週目 コンピュータの利用形態：集中処理、分散処理等
- 11週目 ネットワークシステムと通信技術
- 12週目 データベースシステム(1)：データ構造とファイル編成法
- 13週目 データベースシステム(2)：リレーショナルデータベースとSQL
- 14週目 アルゴリズムの基本とシステム開発の手順
- 15週目 セキュリティシステムと暗号化技術
- 16週目 期末試験

【履修上の注意事項】

レポート作成等においてインターネットによる情報検索技術を要するため、基本的な情報処理技術の修得が必須となる。

【評価方法】

成績評価は、出席、受講態度、レポート(4回以上)、期末試験に基づいて総合的に評価する。なお講義内容は互いに密接に関連しているため可能な限りの出席を求める。

【テキスト】

テキストおよび資料については毎回配布する。

【参考文献】

金谷信之：『三訂版 情報処理論』晃洋書房・ライオン K. スティーブンス他：『SQLプログラミング入門』ソフトバンク・安藤明文：『情報処理入門 三訂版(情報処理テキストシリーズ)』実教出版

情報数学 I

担当教員 平良 直之

配当年次 1年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

情報とは「ある事柄についてのしらせ」であり、物事の判断や行動を起こすきっかけとなる知識と捉えることができる。情報科学の分野ではこれらをデータと呼び、データにいくつかの処理を施すことでより価値のある新しいデータ（情報）を作り出すことを情報処理という。本講義ではまず高校数学の復習を行い、次に微分積分や確率など、情報処理に必要な基本的な知識を学ぶ。また、数学の概念が情報処理の場でどのように生かされるかの解説を行い、練習問題をなるべく多くこなすことで受講生が数学的センスを身につけられるよう配慮する

【授業の展開計画】

本講義では、以下の授業計画を基に講義を展開し、情報科学に必要な基礎的な数学知識を学ぶ。

週	授 業 の 内 容
1	基礎数学 (i)
2	基礎数学 (ii)
3	基礎数学 (iii)
4	基礎数学 (iv)
5	基礎数学 (v)
6	基礎数学 (vi)
7	微分と積分(i)
8	微分と積分(ii)
9	微分と積分(iii)
10	微分と積分(iv)
11	微分と積分(v)
12	場合の数と確率(i)
13	場合の数と確率(ii)
14	場合の数と確率(iii)
15	場合の数と確率(iv)
16	

【履修上の注意事項】

- ①本講義は、オペレーションズ・リサーチ、意思決定論、知的情報処理などに関連する基礎科目であるため、情報系科目の受講を希望する学生は履修することが望ましい。
- ②出席状況を重視し、講義の3分の1以上欠席したものは原則として不可とするので注意すること。
- ③第1回目より講義を開始する。第1回目に欠席した者は、講義を登録させないこともあるので注意すること。

【評価方法】

試験結果、出席状況、レポートにより評価する。

【テキスト】

未定（第一回目の講義の際に連絡します。）

【参考文献】

(1) 石村園子 著「やさしく学べる基礎数学 線形代数・微分積分」、共立出版 (2) 情報処理教育研究会 編「情報数学の基礎」、日本理工出版会 (3) 小堆光喜 著「情報処理数学 60DAYS」、実教出版

情報数学Ⅱ

担当教員 平良 直之

配当年次 1年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

本講義では、情報数学Ⅰに引き続き情報処理に必要な基本的な数学を学ぶ。具体的には、集合と論理、 n 進数、情報科学分野で必須となるベクトルと行列について学習する。なお、講義の方針は、情報数学Ⅰと同様に、数学の概念が情報処理の場でどのように生かされるかの解説を主に行い、練習問題をなるべく多くこなすことで数学的センスが身に付けられるよう配慮する。

【授業の展開計画】

本講義では基本的に次の計画のもとで授業を展開する予定であるが、受講生の状況に応じて予定を変更することがあるので留意すること。

週	授 業 の 内 容
1	集合と論理 (i)
2	集合と論理 (ii)
3	集合と論理 (iii)
4	n 進数 (i)
5	n 進数 (ii)
6	n 進数 (iii)
7	n 進数 (iv)
8	ベクトル (i)
9	ベクトル (ii)
10	ベクトル (iii)
11	行列 (i)
12	行列 (ii)
13	行列の応用 (i)
14	行列の応用 (ii)
15	行列の応用 (iii)
16	

【履修上の注意事項】

①本講義は、オペレーションズ・リサーチ、意思決定論、知的情報処理などに関連する基礎科目であるため、情報系科

目の受講を希望する学生は履修することが望ましい。

②出席状況を重視し、講義の3分の1以上欠席したものは原則として不可とするので注意すること。

③第1回目より講義を開始する。第1回目に欠席した者は、講義を登録させないこともあるので注意すること。

【評価方法】

試験結果、出席状況、レポートにより評価する。

【テキスト】

未定（第一回目の講義の際に連絡します。）

【参考文献】

未定（第一回目の講義の際に連絡します。）

情報リテラシー演習

担当教員 安里 肇・又吉光邦

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

本講義では、ウェブサイト構築（HTML・CSS）およびフラッシュを用いたアニメーション技術を学ぶ。まず最初にテキストエディタで、HTMLのタグを入力して基本的なウェブサイトの作成を行う。さらにスタイルシートを利用したデザイン手法、画像や音声など各種フォーマットの特性を学び、最後にアニメーション作成ソフトウェア（Flash）を用いて簡単なアニメーションの制作を行う。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス・登録調整
2	HTMLの基本・テキストエディタの使用法
3	文字のデザイン・カラーコード
4	リンク
5	背景と罫線
6	画像レイアウト・グラフィックソフトの使用法
7	横幅と配置のアレンジ
8	テーブル
9	フォーム
10	中間試験
11	Flashの基本
12	FlashによるデザインFlashを用いたオープニングアニメーション
13	応用例と上級テクニック
14	試験もしくは課題レポートプレゼン
15	総括
16	

【履修上の注意事項】

共通科目の情報処理基礎を受講済みの学生もしくはそれと同等の技術（ワープロ・表計算ソフトの基礎知識）がある者のみを登録する。これらの技術がない場合には情報処理基礎を履修してから受講すること。内容については毎回の講義の積み重ねになるため、遅刻・欠席は認めない。初回の講義に欠席する者は登録を取り消す（欠席する場合には事前に連絡するように）。

【評価方法】

評価は出席状況（30点）と2回の課題レポートもしくは試験（200点）の合計点数より決定する。

【テキスト】

講義時に指定する。

【参考文献】

講義時に紹介する。

地域産業概論

担当教員 兪 炳強

配当年次 1年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

本講義では、地域産業の構造変化や振興のあり方について講義する。具体的には、前半では、地域と産業の関わり方、地域の産業構造、産業の立地および集積などに関する基礎的理論を講義する。後半では、沖縄を事例に、地位産業の実態および今日的課題について講義する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション
2	地域と産業・経済
3	地域と産業構造
4	産業の立地
5	産業集積
6	産業ネットワーク
7	産業クラスター
8	中間まとめ
9	沖縄の産業・経済の全体像
10	沖縄の産業経済政策
11	沖縄の産業構造
12	沖縄の第一次産業
13	沖縄の第二次産業
14	沖縄の第三次産業
15	まとめ
16	

【履修上の注意事項】

前期の履修登録対象者は2年次以上とする。

【評価方法】

出席状況、履修態度および試験の結果に基づき評価を行う。

【テキスト】

プリントおよびPDFファイルを配布する。

【参考文献】

伊藤正昭『新版 地域産業論』学文社、田中史人『地域企業論』同文館出版、内田真人『現代沖縄経済論』沖縄タイムズ社、そのほか授業内容に合わせて適宜紹介する。

プログラミング理論

担当教員 安里 肇

配当年次 1年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

コンピュータ・ソフトウェアを中心とした情報処理の基本的な問題を扱う。具体的には、プログラミング言語の種類、流れ図の基本、基本アルゴリズムの理解、プログラミング言語Javaのコーディングの参考例などを取り上げて講義を進めていく。本講義では、基本的な論理構成手法（基本アルゴリズム）を覚えること（英語の基本文法を覚えるようなもの）を基本に、例題を基本アルゴリズムの組み合わせで構成し（簡単な英作文を練習するようなもの）、フローチャート（流れ図）の作成等を行う。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス 「プログラミングとは？」
2	アルゴリズム・フローチャート・構造化プログラミング
3	プログラミング言語の種類と分類
4	データ累計とカウンタ
5	java言語によるプログラム例
6	基本データ構造 1次元配列
7	中間試験
8	システムエンジニアの仕事とは？
9	基本データ構造 2次元配列
10	スタック・キュー・リスト
11	サーチ（検索）アルゴリズム
12	ソート（並べ替え）アルゴリズム
13	その他の基本アルゴリズム&練習問題
14	最終試験
15	試験解答・総括
16	

【履修上の注意事項】

第1週目に出席しない場合には登録を取り消す（出席できない場合は事前に連絡すること）。産業情報学科の学生以外は登録できない。1年次を優先して登録する。

【評価方法】

評価は出席状況（30点）と2回の試験（200点）の合計点数より決定する。

【テキスト】

テキストは講義時に指定する。なお、ウェブサイトで講義時に使用するデータを公開する（講義で使用するパワーポイントでのテキストをPDF化し公開する）。

【参考文献】

簿記原理 I

担当教員 洲鎌 博克

配当年次 1年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4.0

【授業のねらい】

本講座では、簿記の基本を学習し、三級程度を学ぶ。簿記は、本を読んで暗記する学問ではないので、記帳練習を繰り返し行うことにより、計算と記帳が自由にかつ迅速にできる技術を見に付ける。簿記は数学と同様に累積的学科であるから、前の段階が完全にできないと、次の段階の理解が困難になるので、途中で欠席しないように（特に4～5月にかけては）心がけること。簿記一巡の手続きをいつも念頭に置いて勉強すると効率良く理解できると思う。

【授業の展開計画】

簿記原理 I は今後受講する簿記原理 II、英文簿記、工業簿記、原価計算、会計学、財務諸表論、税務会計、コンピュータ会計、監査論、経営分析、会計実務など会計科目だけでなくその他諸々の科目にも大いに関連があるので頑張ってもらいたい。

- (1) 資産・負債・資本と貸借対照表
- (2) 収益・費用と損益計算書
- (3) 取引
- (4) 仕訳と勘定記入
- (5) 試算表と精算表
- (6) 決算の仕方（その1）
- (7) 現金・預金
- (8) 商品売買
- (9) 商品有高帳
- (10) 貸倒損失と貸倒引当金
- (11) 債権・債務
- (12) 手形取引
- (13) 有価証券
- (14) 固定資産
- (15) 資本金と引出金
- (16) 決算の仕方（その2）

【履修上の注意事項】

計算と記帳が自由に、かつ迅速にできる技術を見に付けるため、記帳練習を繰り返し行うので、電卓かそろばんは必携。減点の対象になるので、講義中、私語は絶対に慎むこと。

【評価方法】

試験、授業態度、宿題など総合的に評価する。授業態度での私語は絶対に禁じます。減点の対象となります。

【テキスト】

開講時に紹介する。必ず購入すること。

【参考文献】

開講時に紹介する。必ず購入すること。

簿記原理 I

担当教員 上江洲 由正

配当年次 1年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4.0

【授業のねらい】

企業活動を情報化する技法である複式簿記の基本的仕組みや原理について商業簿記を中心に講義する。具体的には、資産、負債、純資産（資本）、収益および費用の意味内容、経営活動の記帳ルールとプロセス、決算、経営活動を情報化した貸借対照表と損益計算書の作成を講義する。簿記は実学であるので、練習問題をできるだけ多く解いてもらい理解を深めてもらう。

【授業の展開計画】

第 1回 複式簿記の意味と目的	第16回 商品売買の記帳（3分法）
第 2回 資産・負債・資本	第17回 売上総利益の計算
第 3回 貸借対照表の作成	第18回 売上帳・仕入帳等の作成
第 4回 収益、費用と損益計算書の作成	第19回 人名勘定と掛取引の記帳
第 5回 取引と勘定	第20回 手形の記帳
第 6回 仕訳と転記	第21回 同上
第 7回 同上	第22回 その他の債権・債務の記帳
第 8回 試算表の作成	第23回 第22回までの復習問題
第 9回 6桁精算表の作成	第24回 減価償却費の計算と記帳
第10回 決算	第25回 貸倒引当金の記帳
第11回 同上	第26回 有価証券の記帳
第12回 現金および預金の記帳	第27回 費用、収益の見越
第13回 同上	第28回 費用、収益の繰延
第14回 第13回までの総まとめ	第29回 8桁精算表の作成
第15回 総合問題	第30回 財務諸表作成問題
	第31回 期末テスト

【履修上の注意事項】

1回でも休むと次の授業が全くわからなくなるので、毎回出席のこと。
 なお、テキストの持参がなければ講義は全く理解できず、したがって出席扱いとはならないので注意すること。

【評価方法】

テスト、受講態度、宿題などの提出状況に基づき評価を行う。

【テキスト】

上江洲由正、大城建夫編著『新版簿記の技法とシステム』同文館

【参考文献】

その都度紹介する。

簿記原理Ⅱ

担当教員 洲鎌 博克

配当年次 1年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4.0

【授業のねらい】

本講座では、簿記原理Ⅰを復習しながら、二級の範囲を学ぶ。簿記は、本を読んで暗記する学問ではないので、記帳練習を繰り返し行うことにより、計算と記帳が自由に、かつ迅速にできる技術を身に付ける。簿記は数学と同様に累積的学科であるから、前の段階が完全に理解できないと、次の段階の理解が困難になるので、途中で欠席しないように心がけること。簿記一巡の手続きをいつも念頭に置いて勉強すると効率良く理解できると思う。

【授業の展開計画】

簿記原理Ⅱは今後受講する英文簿記、工業簿記、原価計算、会計学、財務諸表論、税務会計、コンピュータ会計、監査論、経営分析、会計実務など会計科目だけでなくその他の諸々の科目にも大いに関連があるので、頑張ってもらいたい。

- (1) 現金・預金取引
- (2) 有価証券取引
- (3) 債権・債務取引
- (4) 手形取引
- (5) 引当金取引
- (6) 商品売買取引
- (7) 特殊商品売買取引
- (8) 有形固定資産取引
- (9) 無形固定資産取引
- (10) 損益取引
- (11) 株式会社会計
- (12) 決算
- (13) 本支店会計
- (14) 帳簿組織

【履修上の注意事項】

計算と記帳が自由に、かつ迅速にできる技術を身に付けるため、記帳練習を繰り返し行うので、電卓かそろばんは必携。減点の対象になるので、講義中、私語は絶対に慎むこと。携帯電話は講義中は鞆の中に入れておくこと。

【評価方法】

試験、授業態度、宿題など総合的に評価する。授業態度での私語は絶対に禁じます。減点の対象になります。

【テキスト】

開講時に紹介する。必ず購入すること。

【参考文献】

開講時に紹介する。必ず購入すること。

簿記原理Ⅱ

担当教員 上江洲 由正

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

企業活動を情報化する技法である複式簿記の仕組みや原理について、特殊商品売買や株式会社の簿記および本支店の簿記を中心に講義する。練習問題をできるだけ多く解いてもらい理解を深めてもらう。

【授業の展開計画】

第 1回	有価証券の特殊取引 (その 1)	第16回	株式会社の資本
第 2回	有価証券の特殊取引 (その 2)	第17回	利益の処分
第 3回	特殊な手形取引	第18回	損失の処理
第 4回	特殊商品売買 (その 1)	第18回	消費税など
第 5回	特殊商品売買 (その 2)	第20回	株式会社の税金
第 6回	特殊商品売買 (その 3)	第21回	本支店会計 (その 1)
第 7回	有形固定資産	第22回	本支店会計 (その 2)
第 8回	無形固定資産	第23回	本支店会計 (その 3)
第 9回	投資その他の資産	第24回	本支店会計 (その 4)
第10回	繰延資産	第25回	第23回までのまとめ
第11回	社債 (その 1)	第26回	貸借対照表 (その 1)
第12回	社債 (その 2)	第27回	貸借対照表 (その 2)
第13回	引当金	第28回	損益計算書 (その 1)
第14回	第12回までのまとめ	第29回	損益計算書 (その 2)
第15回	総合練習問題	第30回	総まとめ
		第31回	期末テスト

【履修上の注意事項】

簿記原理Ⅰの履修が条件となる。1回でも休むと次の授業が全くわからなくなるので、毎回出席のこと。なお、テキストの持参がなければ講義は全く理解できず、したがって出席扱いとはならないので注意すること。

【評価方法】

テスト、受講態度、宿題などの提出状況に基づき評価を行う。

【テキスト】

上江洲由正、大城建夫編著『新版簿記の技法とシステム』同文館

【参考文献】

その都度紹介する。

意思決定論

担当教員 平良 直之

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

意思決定は我々の日常生活から組織体の活動に至るまで欠かすことのできない行為であり、特に企業においては組織の存続に関わることも多く、意思決定を効果的に行うためには情報収集・現状分析・代替行為の決定といった一連の情報処理プロセスを理論的根拠に基づき実践することが必要となる。

本講義では、人間の主観的判断の計測や収集情報の整理、問題構造の分析等を支援する際に有効となる意思決定支援手法やアルゴリズムについて学習する。また、これらの手法の適用事例も適時紹介する。

【授業の展開計画】

本講義では、意思決定を支援する手法やアルゴリズムについて学ぶ。具体的には、次の計画のもとで授業を展開する予定であるが、受講生の状況に応じて予定を変更することがあるので留意すること。

週	授 業 の 内 容
1	意思決定支援手法の概要
2	意思決定基準 (i)
3	意思決定基準 (ii)
4	意思決定と確率 (i)
5	意思決定と確率 (ii)
6	期待値と期待効用
7	主観確率
8	主観的判断の計測と階層分析法 (i)
9	主観的判断の計測と階層分析法 (ii)
10	階層構造と構造化アルゴリズム (i)
11	階層構造と構造化アルゴリズム (ii)
12	マルコフ連鎖 (i)
13	マルコフ連鎖 (ii)
14	リスクと不確実性 (i)
15	リスクと不確実性 (ii)
16	

【履修上の注意事項】

第1回目の講義に欠席したものは、登録を取り消す場合があるので、必ず出席すること。
また、講義の3分の1以上欠席したものは原則不可とするので注意すること。

【評価方法】

試験結果、レポート、出席状況により評価する。

【テキスト】

未定（第1回目の講義の際に連絡します。）

【参考文献】

- (1) 木下栄蔵 著「わかりやすい意思決定入門」, 近代科学社
- (2) 松原望 著「意思決定の基礎」, 朝倉出版

エグゼクティブ・セミナー

担当教員 -上地 哲

配当年次 2年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

激動の時代、飽食の時代。人々は利便性を追及し、物質的な豊かさを謳歌している。でも、何故か不安で心が満たされない。こうした社会現象は日本人が何にも増して経済的繁栄を求めて走ってきたから。「人は何のために働くのか」「何のために生きるのか」 混迷の時代だからこそ生き方をしっかりと見つめ直していかなければ」……。 「生きていくこと」は、それぞれの生きている時代と深い関係を有する。人はどう生きればいいのか……。生きかたの哲学こそ最も重要な問題だと思う。

【授業の展開計画】

— 授業のねらい — 続き

たった1度だけの人生。激しく変化する今日社会において人として「生きていくこと」の難しさ、素晴らしさについて講義を通して考えてみたい。

- 1 週目 講義概要 (ガイダンス) 産業革命 — 近代産業社会の誕生
- 2 週目 新たなる社会の動き — 科学的管理・人間関係・コミュニケーション
- 3 週目 産業構造の変革 — 第2次産業革命・終身雇用制度の崩壊
- 4 週目 ネットワーク社会の到来と新サービス産業の出現
- 5 週目 今日社会の特徴 (時代検証) — 雇用形態の多様化
- 6 週目 ニッチ産業等の台頭 リストラクチャリングとその影響
- 7 週目 勤労環境の変化に伴う社会問題の発生
- 8 週目 新時代の勤労環境とニートに見られる新しい価値観・人生観の形成
- 9 週目 企業の求める人材とスキル・コンピテンシー
- 10 週目 発想の転換 — 人生80年—「こころ」の時代
- 11 週目 ストレス社会で働くこと — 心身の健康
- 12 週目 心のデフレ時代の「メンタルヘルス・ケア」
- 13 週目 人生とは「生きかた」 — 個人の自立とキャリア問題
- 14 週目 生き甲斐ある人生とは — 「幸せ」とは いつまでも青春!
- 15 週目 「魅力ある人」とは 期末試験

【履修上の注意事項】

【評価方法】

成績評価は出席状況、課題提出、講義中の学習態度、期末試験結果を総合的に判断して行う。

【テキスト】

テキスト・資料については必要に応じて配布する。

【参考文献】

①何のために生きるのか・五木寛之・稲盛和夫・致知出版社、②生き方上手・日野原重明・ユーリーグ ③産業カウンセリング入門・(社)日本産業カウンセラー協会、④人生に意味はあるのか・諸富祥彦・講談社現代新書

応用マクロ経済学 I

担当教員 儀間 久米夫

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

金融問題に端を発した世界的不況に対し、従来型のマクロ経済政策は有効性に欠けているようである。今までのような財政政策や金融政策は見直すべき時期にきているように思われる。本講義では、日々おこっている経済問題にターゲットをあて、マクロ経済理論が現実の問題にどこまで対応しうるかを検証する。したがって、講義では日経新聞その他新聞で取り上げられる経済問題を考察しながら、経済理論との対比をしながらマクロ経済学の本質を議論していく。受講生は、日々、経済欄には目を通してほしい。

【授業の展開計画】

1. 講義概要・マクロ経済学とは、
2. 現実の経済問題と理論
3. 国民所得の概念と国内経済（1）
4. 国民所得の概念と国内経済（2）
5. 産業連関表と経済効果（1）
6. 産業連関表と経済効果（2）
7. 租税関数（1）
8. 租税関数（2）
9. 物価、インフレ・デフレ（1）
10. 物価、インフレ・デフレ（2）
11. IS分析
12. 流動性選好と利子率
13. LM分析
14. 現実の経済問題と財政政策
15. 現実の経済問題と金融政策
16. 試験

【履修上の注意事項】

新聞の経済面には常に目を通しておくこと。受講前にマクロ経済学と経済数学についての事前学習を望む。

【評価方法】

出席・期末試験

【テキスト】

特に指定なし。日経新聞の抜粋。レジ目配布。

【参考文献】

「入門マクロ経済学」、中谷巖、日本評論社 「マクロ経済学」脇田成、堀敬一、有斐閣
「マクロ経済学上・下」廣松毅/ドーンブッシュ/S・フィッシャー、シーエービー出版

応用マクロ経済学Ⅱ

担当教員 儀間 久米夫

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

前期に続いて、マクロ経済学の理論をベースに現実の経済問題について検証していく。前期は国内の経済問題が議論の中心となるが、後期は諸外国の影響も考慮した議論を展開していく。為替市場・労働市場を含めた総需要・総供給の理論を考えながら昨今の不況及び失業に対する経済政策を議論する。その後、望ましい経済成長について検討する。

【授業の展開計画】

1. IS-LM分析の再考
2. 貿易と為替レート
3. 固定相場制と変動相場制 (1)
4. 固定相場制と変動相場制 (2)
5. 労働市場の分析 (1)
6. 労働市場の分析 (2)
7. AD-AS分析 (1)
8. AD-AS分析 (2)
9. フィリップ曲線 (物価版)
10. 景気循環と失業 (1)
11. 景気循環と失業 (2)
12. 消費論と投資論 (1)
13. 消費論と投資論 (2)
14. 経済成長論 (1)
15. 経済成長論 (2)
16. 後期試験

【履修上の注意事項】

日々、新聞の経済欄には目を通しておくこと

【評価方法】

出席・期末試験

【テキスト】

特に指定なし。経済記事、レジメ配布

【参考文献】

「入門マクロ経済学」中谷巖、日本評論社 「国際経済学」土屋六郎、東洋経済 「現代マクロ経済学講義」加藤涼、東洋経済新報社k 「マクロ・エコノミックス」グレゴリー・マンキョウ、東洋経済新報社

応用ミクロ経済学 I

担当教員 前村 昌健

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

経済学は限られた資源（土地、労働力、設備やお金など）で財・サービスを生産し、それを分配し、消費して生活をするという人間の経済活動について研究する。ミクロ経済学は、売り手と買い手が市場の価格を通じて意志決定を行うという市場メカニズムについて究明する。講義では主に「家計の経済活動における意志決定」、「企業の経済活動における意志決定」を取り上げる。

【授業の展開計画】

- 第一回 家計の経済活動：選好と効用
- 第二回 無差別曲線の性質①
- 第三回 無差別曲線の性質②
- 第四回 予算の制約
- 第五回 需要量の決定①
- 第六回 需要量の決定②
- 第七回 所得変化・価格変化の効果
- 第八回 企業の生産活動、生産関数①
- 第九回 生産関数②
- 第十回 費用曲線①
- 第十一回 費用曲線②
- 第十二回 産出量の決算①
- 第十三回 産出量の決定②
- 第十四回 供給変化の効果
- 第十五回 期末試験

【履修上の注意事項】

第一回目の講義の際に履修上の注意を連絡します。テキストは履修上の注意を聞いてから購入して下さい。

【評価方法】

出席、レポート提出、期末試験を基に総合的に評価します。

【テキスト】

伊藤元重『ミクロ経済学』、日本評論社

【参考文献】

①N・G・マンキュー著、足立ほか訳、『マンキュー経済学 I ミクロ編』、東洋経済新報社、2000年

応用ミクロ経済学Ⅱ

担当教員 前村 昌健

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

オペレーションズリサーチ

担当教員 東 るみ子

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

オペレーションズ・リサーチ (OR) とは最適戦略に関連する手法の総称であり、第二次世界大戦中のイギリスで様々な分野の科学者が招集され、軍の配備や防空システムといった軍事目的の研究に着手したことが発端だと言われている。また、複雑化・多様化した現代社会において、最良の方針を模索するための合理的・科学的アプローチは企業や政府、自治体にとって必須となっており、ORの考え方は効果的な情報処理という意味でも重要な位置づけにある。

【授業の展開計画】

本講義では基本的に次の計画のもとで授業を展開する予定であるが、受講生の状況に応じて予定を変更することがあるので留意すること。

週	授 業 の 内 容
1	ORとは
2	線形計画法(i)
3	線形計画法(ii)
4	線形計画法(iii)
5	日程計画とPERT(i)
6	日程計画とPERT(ii)
7	日程計画とPERT(iii)
8	中間試験
9	在庫管理(i)
10	在庫管理(ii)
11	在庫管理(iii)
12	待ち行列理論(i)
13	待ち行列理論(ii)
14	待ち行列理論(iii)
15	期末試験
16	

【履修上の注意事項】

- ①本講義は、意思決定論、知的情報処理などに関連する科目であるため、情報系科目の受講を希望する学生は履修することが望ましい。
- ②出席状況を重視し、講義の3分の1以上欠席したものは原則として不可とするので注意すること。

【評価方法】

試験結果、出席状況、レポートにより評価する。

【テキスト】

未定（第一回目の講義の際に連絡します。）

【参考文献】

- (1) 福田・児玉・中道著「OR入門」, 多賀出版
- (2) 大村平著「ORのはなし」, 日科技連
- (3) 森・松井著「オペレーションズ・リサーチ」, 朝倉書店

金融情報論 I

担当教員 池宮城 尚也

配当年次 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

金融情報論 I では、「金融システム」および「金融の理論的側面」を講義する。講義の目的は、「産業の情報化」と「金融部門」の関わりを理解するための、基礎知識を身につけることである。受講生には、産業・経済の様々な現象に接する中で、「どの部分が金融なのか」気づく習慣を身に付けて欲しい。イメージしやすい、身近な金融行動を例として取りあげるところから解説をはじめ、「実生活に役立つ知識」としての金融論講義を目指したい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	金融と情報システム:イントロダクション
2	金融市場の基礎知識①
3	金融市場の基礎知識②
4	金融の理論的側面 1 : 金融市場①
5	金融の理論的側面 1 : 金融市場②
6	家計の金融活動
7	企業の金融活動
8	金融の理論的側面 2 : 企業行動①
9	金融の理論的側面 2 : 企業行動②
10	わが国の銀行
11	わが国の金融サービス業
12	金融の理論的側面 3 : 金融仲介①
13	金融の理論的側面 3 : 金融仲介②
14	銀行規制政策
15	わが国の金融政策 16回目に期末試験を行なう。
16	

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席, レポート, 試験等により, 総合的に評価する。

【テキスト】

教科書は使用しない。講義ノート・資料のプリントを配布して解説する。

【参考文献】

- [1] 滝川好夫『金融論の楽々問題演習』税務経理協会, 2007年。
 [2] 藤原賢哉・家森信善編著『金融論入門』, 2002年。

金融情報論Ⅱ

担当教員 池宮城 尚也

配当年次 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

金融情報論Ⅱでは「資金決済システム」および「電子マネー・電子商取引」を中心に講義する。金融部門は情報化と相互に作用しあって発展してきた産業である。従って、金融論の視点から「産業の情報化」について理解することが講義の目的である。講義の際は、日常的な金融行動を例に取り上げて解説をはじめ。学習内容を身近にイメージしてもらおうことを通じて、「実生活に役立つ知識」としての金融論講義を目指したい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	金融と情報システム:イントロダクション
2	資金決済システム①
3	資金決済システム②
4	決済リスク
5	資金決済システムの比較
6	資金決済システムの現在
7	金融の理論的側面1:マネーサプライと銀行行動①
8	金融の理論的側面1:マネーサプライと銀行行動②
9	電子マネー・電子商取引①
10	電子マネー・電子商取引②
11	金融の理論的側面2
12	金融システムと情報技術革新①
13	金融システムと情報技術革新②
14	情報技術革新の進展と金融経済①
15	情報技術革新の進展と金融経済② 16回目に期末試験を行なう。
16	

【履修上の注意事項】

金融論の基礎知識を前提に講義を進めるので、金融情報論Ⅰを受講しておくことが望ましい。

【評価方法】

出席, レポート, 試験等により, 総合的に評価する。

【テキスト】

教科書は使用しない。講義ノート・資料のプリントを配布して解説する。

【参考文献】

- [1] 館龍一郎監修, 日本銀行金融研究所編『電子マネー・電子商取引と金融政策』東京大学出版会, 2002年。
 [2] 中島真志・宿輪純一『決済システムのすべて(第2版)』東洋経済新報社, 2005年。

コンピュータ会計

担当教員 洲鎌 博克

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

コンピュータ会計を行なうといっても、ある程度の簿記会計の知識は必要である。しかし、それを理解する場合にも、実際に会計ソフトを使って学習を進めていくほうが、遥かにわかりやすいと思われる。進め方としては、簿記の征服の重点である簿記一巡の手続きを理解するために、日々の記帳から決算までを実際に行なうという形式をとる。具体的には3級ワークブックの簿記の基本原単位10回くらいまでである。それに商品勘定は、10回位では分記法の処理を用いているので、ここでは、実務に使っている三分法の場合の処理も学ぶ。

【授業の展開計画】

～授業のねらいのつづき～

始めに講義の進度に応じた簿記の理解、次に実際にコンピュータで処理をしていく。余裕のある学生は、前期の会計実務の取引をコンピュータで記帳する。

- (1) オリエンテーション
- (2) 起動
- (3) 終了
- (4) 事業設定（企業名、会計期間）
- (5) 勘定科目の設定
- (6) 勘定科目の残高入力
- (7) 仕訳の入力
- (8) 決算

【履修上の注意事項】

実際にコンピュータを使って決算するまでするので、電卓かそろばんは必携。
前期に会計実務の履修を望みます。

【評価方法】

講義中に作成した作品の提出は必ずすること。その上で試験、授業態度、宿題など総合的に評価する。

【テキスト】

開講時に紹介する。

【参考文献】

開講時に紹介する。

コンピュータ概論

担当教員 安里 肇・仲程 基経

配当年次 2年

単位区分 必

関連資格

備考 資格科目

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

コンピュータ科学の基礎，コンピュータ内部のデータ表現，コンピュータシステム・ハードウェア，コンピュータシステム・ソフトウェア，データ構造とアルゴリズム，システムの開発と運用，ネットワーク技術，LANとインターネット，情報化と経営等を体系的に学ぶ。具体的な内容は，通信速度とトラフィック，コンピュータアーキテクチャ，インターネット関連技術，サーバ・クライアントネットワークシステムの概要，データベースの概要(SQL含む)等を取り上げる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス
2	基数変換
3	補数・シフト演算・浮動小数点他
4	論理演算
5	コンピュータ五大装置
6	CPUの働き
7	記憶装置
8	中間試験
9	信頼性・暗号化技術・知的財産権
10	会社の仕組みと情報システム
11	データベース (SQL)
12	コンピュータネットワーク
13	インターネット・関連分野
14	最終試験
15	試験解答・総括
16	

【履修上の注意事項】

この科目は上級情報処理士課程科目であるため，卒業単位には含まれない。情報処理概論及びプログラミング理論を履修していることを前提に講義を進める。履修していない者は両科目を履修してから受講した方が良い。第1週目に出席しない場合には登録を取り消す（出席出来ない場合は事前に連絡すること）。講義の進め方は基本情報技術者試験の内容とリンクさせているので，受講者は講義と平行して資格試験等に挑戦してほしい。

【評価方法】

評価は出席状況(30点)と2回の試験(200点)の合計点数より決定する。

【テキスト】

テキストは講義時に指定する。なお，ウェブサイトで講義時に使用するデータを公開する（講義で使用するパワーポイントでのテキストをPDF化し公開する）。

【参考文献】

講義時に紹介する。

産業情報分析 I

担当教員 兪 炳強

配当年次 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

本講義では、産業に関わるデータや情報の収集力および分析力の向上を目標とする。具体的には、インターネットなどから産業・経済データを収集し、表計算ソフト（Microsoft Excel）などの統計処理ソフトを用いた分析手法についての学習を行う。なお、本講義は、パソコンを用いた演習形式で行う。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション
2	推移・比較分析
3	順位・比較分析
4	内訳・順位分析
5	関係分析
6	比較・関係分析
7	階層分析
8	集中度・格差分析
9	原因の影響度分析
10	売上傾向分析
11	伸び率分析
12	データの集計分析
13	CS分析
14	データの基本的統計分析（その1）
15	データの基本的統計分析（その2）
16	

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席状況と試験の結果に基づき評価を行う。

【テキスト】

PDFファイルやプリントなどを配布する。

【参考文献】

山崎紅『説得できるデータ図解の鉄則 Excelとシミュレーション活用編』日経BP社、住中光夫『Excelでマスターするビジネスデータ分析 実践の極意』ASCII、上田太郎『新版Excelでできるデータマイニング入門』同友館、等。

産業情報分析Ⅱ

担当教員 兪 炳強

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

本講義では、産業に関わるデータや情報の収集力および分析力の向上を目標とする。具体的には、インターネット上からの産業データの収集、表計算ソフト（Microsoft Excel）などの統計処理ソフトを用いた分析手法についての学習を行う。なお、本講義は、パソコンを用いた演習形式で進める。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション
2	産業情報データの特性を分析する（1）
3	産業情報データの特性を分析する（2）
4	産業情報データの特性を分析する（3）
5	ものごとの関係を分析する（1）
6	ものごとの関係を分析する（2）
7	ものごとの関係を分析する（3）
8	単一要因の効果の大きさを評価する
9	複数の要因変数の効果を同時に測る（1）
10	複数の要因変数の効果を同時に測る（2）
11	どちらのグループになるかを判別予測する
12	普及率などを予測する
13	定性的データを数量的に分析する（1）
14	定性的データを数量的に分析する（2）
15	まとめ
16	

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席状況と試験の結果に基づき評価を行う。

【テキスト】

PDFファイルやプリントなどを配布する。

【参考文献】

渡辺美智子ほか「実践ワークショップ Excel徹底活用 統計データ分析」秀和システム、淵上美喜ほか『実践ワークショップ Excel徹底活用 ビジネスデータ分析』秀和システム、上田太郎ほか『実践ワークショップ Excel徹底活用 多変量解析』秀和システム、等。

産業連関論

担当教員 廣瀬 牧人

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

産業連関分析は、道路建設などの公共投資、地域イベント、公共料金の値上げなど、各種の経済波及効果を測定するための極めて有用な分析用具で、今や、県・市町村段階においても極めて一般的に活用されている。

本講義では、産業連関分析の基礎理論を理解するとともに、パソコンを利用して簡単な応用分析を自力で行える能力の習得を目指す。

【授業の展開計画】

本講義では、「産業連関表とは何か」から出発し、「産業連関分析モデルの意味や分析手順」に関する基礎理論を習得した後に、沖縄県産業連関表を用いて課題研究を行う。また、分析モデルの前提と結果の解釈という実践的な内容に重点を置くこととし、線形代数学などに関する議論は最小限に留める。

週	授 業 の 内 容
1	産業連関論の概要
2	産業連関表の仕組みと読み方 1
3	産業連関表の仕組みと読み方 2
4	産業連関分析の基礎理論 1 (投入係数と生産波及過程の理論)
5	産業連関分析の基礎理論 2 (分析モデルの基礎的な定式化)
6	ベクトルと演算 1 (列ベクトル、行ベクトル、単位ベクトル、転置、相等、和、差、スカラー倍)
7	ベクトルと演算 2 (内積、外積、総括)
8	行列と演算 1 (行列、単位行列、正方行列、転置、相等、和、差、スカラー倍、積)
9	行列と演算 2 (逆行列、連立方程式の解法、総括)
10	産業連関分析の基礎理論 3 (輸入の取扱、輸入係数、分析モデルの定式化)
11	分析演習 1 (3部門表を用いた生産波及分析: 投入・輸入係数行列、Leontief逆行列)
12	分析演習 2 (3部門表を用いた産業間波及構造分析: 感応度・影響力係数)
13	分析演習 3 (3部門表を用いた生産波及分析: 付加価値・雇用誘発係数行列)
14	分析演習 4 (地域間産業連関分析)
15	分析演習 5 (消費内生モデル)
16	

【履修上の注意事項】

(1) 講義はステップ・バイ・ステップで進めるので、出席を重視する。講義内容を理解して貰うための出席要求であるので、厳に自覚すること。

(2) 講義内容や自習方法等に関する質問等については個別対応するので、積極的に取り組んで欲しい。

【評価方法】

成績の評価は、出席状況及び試験（若しくは提出されたレポート）によって行う。なお、再試験・追試験は行わない。

【テキスト】

講義で使用する資料は配付する。

【参考文献】

『はじめよう地域産業連関分析』, 土居英二・浅利一郎・中野親徳, 日本評論社, 1996.

『Excelで学ぶ産業連関分析』, 中村慎一郎, エコノミスト社, 2000.

情報処理システム演習

担当教員 又吉 光邦

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

本授業では、情報処理システム開発の最先端である、携帯端末のソフト開発を通してシステム開発を具体的に学んでいくことを狙いとする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	開発環境 I (JDK, Eclipse, Jupiter)
2	開発環境 II (新規プロジェクトの作成・実行)
3	アクティビティとインデント
4	リソース
5	ビューとレイアウト
6	サービスとノーティフィケーション
7	ストレージとコンテンツプロバイダ
8	位置情報サービスとネットワーク連携 I (位置情報サービスの概要、GoogleMapの表示)
9	位置情報サービスとネットワーク連携 II (位置情報サービス、駅検索アプリケーション)
10	デバイスの使用方法 I (センサー)
11	デバイスの使用方法 III (マルチメディア再生、カメラ)
12	デバイスの使用方法 II (電話機能、バーコードリーダー)
13	アプリケーションの配布
14	開発ツール I (Android debug bridgeの使用方法)
15	開発ツール II (SQLiteデータベースコマンドライン操作)
16	

【履修上の注意事項】

JavaによるAndroid用のシステム開発です。
産業情報学部優先です。

【評価方法】

授業態度、開発したシステムの提出。

【テキスト】

『Google Androidアプリケーション開発入門』、木南英夫、日経BP社。(ただし、AndroidのSDKのバージョンに合わせて、教科書を変更することがあります。それに伴い、講義内容に若干の変更のある場合があります。)

【参考文献】

Android関連書籍。関連Webページ。

情報処理システム論

担当教員 又吉 光邦

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

沖縄におけるの主産業は、農業と観光産業そして公共事業である。鉱物資源等の少ない沖縄では、自然から搾取する形の資源に対し、ソフトウェア等の知的産業は、決してなくなることの無い産業で、人々に安定した職を与える。しかしながら、現在の沖縄には、この知的産業を支えるだけの人的資源が極端に不足している。本講義では、システム設計の基本的方法を学習し、システム分析能力・設計能力・開発能力についてその概要を学んでもらい、将来は沖縄県を支える知の人材へ興味を持ってもらうことを目的としている。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	システム開発技法
2	システム開発コストモデル
3	ソフトウェアの再利用 I (サブルーチン、関数、メソッド、クラス)
4	ソフトウェアの再利用 II (プログラム属性、リバースエンジニアリング)
5	システム化開発の準備
6	システム化要件定義
7	システム設計技法
8	外部設計
9	内部設計
10	プログラミングとレビュー
11	システムの構成技術
12	システムの性能
13	システムの信頼性
14	新しい情報技術とシステム設計 (オブジェクト指向言語でのシステム開発)
15	テスト
16	

【履修上の注意事項】

産業情報学部産業情報学科を優先。

【評価方法】

受講態度状況、テスト、提出物を総合的に評価

【テキスト】

基本情報技術者プラスアルファ「システム開発とその運用」、平井利明・齋藤裕美、実教出版

【参考文献】

インターネット上に公開されている情報。

情報と職業

担当教員 岡田 良

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

専門演習 I

担当教員 洲鎌 博克

配当年次 2年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

専門演習 I

担当教員 カレン ルーパース

配当年次 2年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

このセミナーのねらいは学生達が自信をもって研究調査、分析、執筆、プレゼンテーション等を可能な限り英語を使用して行えるようにすることである。学生独自のトピックを選択し、チームとして他の学生と協力しあいながら個々の研究調査を推し進めることが期待される。学生達は調査研究内容に応じたコンピューターに関する技術（ワード、エクセル、パワーポイント、プログラム言語）を習得し、それらの技術を共有することが望まれる。

【授業の展開計画】

学生によって、ゼミのスケジュールを構成することを望む。下記はあくまでも提案（サンプル）とする。

- 1-2 オリエンテーション・グループ編成：大まかな研究内容の選択
- 3-4 手順、方法論、責務。コンサルテーション
- 5 調査研究の企画に関するプレゼンテーション
- 6-10 データ収集及び処理：プレゼンテーション準備
- 11-13 プレゼンテーション実施：研究調査レポート提出
- 14-15 追加プレゼンテーション実施：評価（学生間）：次年度の研究計画書の提出

C ooperation
R esponsibility
F R E E D O M to The link is English.
A ctivity
T eamwork
E nthusiasm

【履修上の注意事項】

学生は個々の課題（コースワーク）に対し、責任をもって努めなければならない。それと同時に、学生間の協力関係等も評価の対象となる。「協力」とは、単に教えたり、模範を示すことではなく、「互いに学び合う」ということである。学生間の知識や能力をシェアすることで、常に協力し合い、学び合う場を大切にすることに心がけてほしい。

【評価方法】

個人評価及び生徒間評価は、このコースの基盤となるものである。授業時間外の個人及びグループコンサルテーションが要求される。出席は必要不可欠である。

【テキスト】

登録時に説明

【参考文献】

専門演習 I

担当教員 砂川 徹夫

配当年次 2年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

情報システムを活用して、情報（データを含む）の収集、蓄積・検索、分析加工等の効果的な情報処理及び管理手法を学び、活用事例などを通して情報リテラシー能力を高めるとともに、実践的情報処理技能を養成する。併せて、OA・情報システム管理技術者としての専門資格取得を目指した自主学習を支援する。最終的には各自が自主的に取り組む卒業研究に向けた課題テーマの設定やテーマに関連する情報の収集・整理、研究計画書作成等を行ない、発表を行う。

【授業の展開計画】

- 1週目 ゼミのオリエンテーション
- 2-5週目 企画文書等の作成技法や表現技法等の高度化
- 6-9週目 情報（データ含む）の収集、管理、分析手法の高度化
- 10-12週目 パソコンのハード・ソフト・ネットワーク等の組立・設定技法の実習

【履修上の注意事項】

基本的には、情報処理概論、情報数学、プログラミング理論等を修得していることが望ましい。

【評価方法】

課題や研究計画書等の提出、ゼミへの出席状況、資格取得への取り組み等を考慮して総合的に評価する。

【テキスト】

関連資料は、その都度配布する。その他、各ソフトのマニュアルや操作ガイド<Help機能>のほか、発表者作成資料等を使用して演習を進める。

【参考文献】

参考文献は、必要に応じてその都度、紹介する

専門演習 I

担当教員 大井 肇

配当年次 2年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

開講当初はハードウェア、ソフトウェアに関する基本的な知識および技術の修得を目指し、その成果として各種情報処理関連資格の取得を義務付ける。また専門演習 I は専門演習 II の基盤となる演習科目であることから、こうした情報処理に関する基本的な知識の上に、システム構築を念頭においた学習が必要となる。よって、実際に100%作り込まなければ動かないシビアなシステム開発に必須となるロジカルな思考法、豊かな発想力、バグを追求する忍耐力などの精神面の養成も大切な目的となる。

【授業の展開計画】

- 1 週目 ガイダンス
- 2 週目 コンピュータ・グラフィックス①（基礎的な技術）
- 3 週目 コンピュータ・グラフィックス②（企業システムへの応用）
- 4 週目 マルチメディア①（基礎的な技術）
- 5 週目 マルチメディア②（企業システムへの応用）
- 6 週目 システム部門で必要とされるハードウェアの知識①
- 7 週目 システム部門で必要とされるハードウェアの知識②
- 8 週目 データベース・システム①（基礎的な技術）
- 9 週目 データベース・システム②（企業システムにおけるデータベースの役割）
- 10 週目 データベース・システム的设计
- 11 週目 データベース・プログラミング①
- 12 週目 データベース・プログラミング②
- 13 週目 システム部門で必要とされる情報セキュリティの知識
- 14 週目 企業内ネットワーク・システムの知識
- 15 週目 企業内情報システムの問題解決技法
- 16 週目 データの集計と統計処理技法

【履修上の注意事項】

本講義受講のためには、「情報処理概論」、「プログラミング理論」の履修を条件とする。

【評価方法】

成績評価は、出席、受講態度、レポート（5回以上）、各種情報関連資格の取得状況に基づいて総合的に評価する。

【テキスト】

栢木 厚『栢木先生の初級シスアド教室—イメージ&クラブ—方式でよくわかる』技術評論社・栢木 厚『1週間で分かる初級シスアド集中ゼミ』日本経済新聞社・河合 昭男他『明解UML—オブジェクト指向&モデリング入門』秀和システム

【参考文献】

トニー ブザン『人生に奇跡を起こすノート術—マインド・マップ放射思考』きこ書房・茂木 秀昭『ロジカル・シンキング入門』日経文庫、日本経済新聞社

専門演習 I

担当教員 兪 炳強

配当年次 2年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

今日、ITの発展の伴い、いわゆる「情報の産業化」が進み、新たなビジネスや産業が創出されている。同時に既存産業におけるITの活用により、いわゆる「産業の情報化」が進み、既存産業の効率化や発展が図られている。本演習では、インターネットや表計算ソフトなどを活用しながら、経済・産業に関するデータや情報の収集方法および分析方法を学習し、情報の収集力、問題の発見力・分析力を高めることを目標とする。

【授業の展開計画】

インターネットを活用した産業・経済データや情報の収集方法を学習しながら、Excelなどの統計ソフトを用いて産業・経済データや情報のビジュアル的分析手法および基礎的統計分析手法を学習する。また、後半には専門演習Ⅱ以降の学習に向けて、個別研究分野を設定するための文献学習やプレゼンテーションを行う。

【履修上の注意事項】

第一回の演習の時間に詳細について説明する。

【評価方法】

出席、課題の提出、報告レポートの内容およびプレゼンテーションの状況に基づき総合的に評価を行う。

【テキスト】

テキストは特に指定しないが、演習の内容に合わせて必要な参考文献を紹介し、適宜、プリントやPDFファイルを配布する。

【参考文献】

演習の内容に合わせて適宜紹介する。

専門演習 I

担当教員 平良 直之

配当年次 2年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

近年のマイクロエレクトロニクス分野の進歩による計算機の高性能低価格化にともない、情報処理技術を用いて、業務を効率的に行いたいというニーズが高まっている。また、近年の複雑化した経済現象を分析する上で、情報処理技術は欠かすことのできないものである。本演習では、受講生がシステム構築に必要な基本技能を習得することを目標とする。

【授業の展開計画】

本演習では、プログラミングスキルの向上を目指す。具体的には、テキストを中心に概念や文法等を学ぶことよりも、自分で考えコーディングする課題演習を重要視する。また、プレゼンテーションを通じて、説明する技術も学ぶ。

【履修上の注意事項】

- ①本演習は、情報処理システムの構築を必須とする。
- ②本演習では、受講生に対して事前に課題を与え、その報告を踏まえて講義を進めていく。したがって、講義外でかなりの時間を費やすことになるので、この事を十分理解した上で受講を希望すること。
- ③オペレーションズ・リサーチおよび意思決定論は、本演習の関連講義であるため、必ず履修すること。
- ④出席状況を重視し、講義の3分の1以上欠席したものは原則として不可とするので注意すること。

【評価方法】

課題提出および出席状況により評価する。

【テキスト】

未定（第一回目の講義の際に連絡します。）

【参考文献】

(1) 高橋麻奈 著「やさしいJava」, ソフトバンク (2) ハーシー 著「PHP+MySQL」, 毎日コミュニケーションズ (3) 廣川・桑村 著「PHP5徹底攻略」, ソフトバンククリエイティブ

専門演習 I

担当教員 池宮城 尚也

配当年次 2年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

本演習は、金融経済論の学習および研究を行なうことが目的である。専門演習 I では、推測統計学・計量経済分析・経済理論モデルといった、金融経済論の研究に必要な分析方法の学習に着手する。具体的な数値例・データをもとに、Microsoft Excelを利用して実習を進めていく。受講生には、比較的容易なMicrosoft Excel操作に止まらず、出力された計算結果を解釈しようとする習慣を身に付けてもらいたい。なお、金融情報論 I を必ず受講し、金融経済論の基礎知識を身につけておくこと。

【授業の展開計画】

- (1) Exceによるデータ加工・図表作成の基本
- (2) 推測統計学の基礎
- (3) 計量経済分析の基礎
- (4) Excelを利用した経済理論モデルの計算
- (5) 分析のためのデータ収集

【履修上の注意事項】

- (1) Excel操作より、計算結果の理解を要求する学習内容が多い。
- (2) 積極的な学習態度がなければ理解が困難な可能性があるため、注意すること。

【評価方法】

出席、理解状況等により、総合的に評価する。

【テキスト】

浅利一郎・土居英二他『第3版 はじめよう 経済学のための情報処理』日本評論社、2008年。

【参考文献】

- [1] 小川英治・地主敏樹・藤原秀夫他『金融論』有斐閣、2007年。
- [2] 伴金美・中村二郎・跡田直澄『エコノメトリックス(新版)』有斐閣、2006年。

専門演習 I

担当教員 富川 盛武

配当年次 2年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

経済学の知識を基に、リーマンショックによる大不況が何故起こったか、デフレスパイラルとは何か、沖縄の発展戦略は等、今、社会で起こっている事象、現象を分かりやすく解説したい。毎回、テーマを決め課題を与える。資料収集、分析、まとめ、プレゼンテーションのスキルを磨きつつ、社会・経済現象の理解力を培い問題解決の能力を高めていきたい。ディベートも積極的に行いたい。

【授業の展開計画】

1. テーマ①と課題の設定
2. 資料の収集と統計・計量分析の仕方
3. 課題の発表とディスカッションと総括
4. テーマ②と課題の設定
5. 資料の収集と統計・計量分析の仕方
6. 課題の発表とディスカッションと総括
7. テーマ③と課題の設定
8. 資料の収集と統計・計量分析の仕方
9. 課題の発表とディスカッションと総括
10. テーマ④と課題の設定
11. 資料の収集と統計・計量分析の仕方
12. 課題の発表とディスカッションと総括
13. ディベートの進め方
14. ディベート (1)
15. ディベート (2)

【履修上の注意事項】

毎回、テーマを決め、資料収集し、分析方法を基本から教え、発表やディスカッションの能力を高める。とにかく楽しいゼミにしたい。

【評価方法】

出席と発表及びレポートを基に総合的に評価する。

【テキスト】

一つのテキストを解説していくわけではないので指定しない。

【参考文献】

その都度紹介する。

専門演習 I

担当教員 又吉 光邦

配当年次 2年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

本授業（専門演習）では、1年次までの情報処理の基礎の上に、さらに専門的なことを自ら探究心を持って目標を設定し、それを研究・学習・卒業論文としてまとめることにある。テーマによっては、学会の支部大会や全国大会での発表をめざす。学生個人の自主性とその研究対象のアイデアを尊重し、自律的に研究を遂行する積極的な態度と研究成果を要求する。また、起業プロジェクトも積極的な卒業研究と位置付けている。

【授業の展開計画】

情報処理の基礎的な学習を終え、自ら学会発表を行えるテーマやソフト開発などを行うが、それらに必要な研究・調査手法などを実践を通して学習する能力を身につける。

専門演習の課題は、大きく2つに分かれる。1つめはプログラミング言語 Java を中心にしたシステム開発 / Android 用のソフト開発。2つめは、琉球古典の情報と産業面からのアプローチによる研究。

学生の自らが設定したテーマごとにシステムの開発・研究を行い、その進捗状況に応じてセミナー形式で行う。

専門演習では、企業の方々との話し合いの場を設け、実務的な立場、社会人から見た場合の評価について学ぶことも行われる。

【履修上の注意事項】

礼儀・言葉づかい。

【評価方法】

セミナー出席10%、各自の専門演習の進捗90%（発表含む）

【テキスト】

電子情報通信学会学論文、電気学会論文、人工知能学会論文、情報処理学会論文、全国大会論文集、国際会議論文集。やさしいJava・高橋麻奈・ソフトバンク

【参考文献】

遺伝的アルゴリズム関連本。進化計算手法に関する本。組合せ最適化手法に関する本。海外のProceedingsなど。EclipseやJava/Androidについて書かれた本。シリコンバレーに関する図書。沖縄県内の図書館。

専門演習 I

担当教員 前村 昌健

配当年次 2年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

地域財政について制度、理論、実際面について学習する。近年は、地方分権の推進が大きな課題となっており、今後、地方公共団体の地域社会における役割が益々重要となってくる。沖縄県の場合、地域経済が自治体の財政に大きく依存していることから地域財政と地域経済との関係について学習し、研究を深めていく。

【授業の展開計画】

- 第1回 演習 I のオリエンテーション
- 第2回 地域財政の基本概念①
- 第3回 地域財政の基本概念②
- 第4回 地域財政の基本概念③
- 第5回 地方歳入の動向①
- 第6回 地方歳入の動向②
- 第7回 地方支出の動向③
- 第8回 地方歳出の動向④
- 第9回 地域経済と財政①
- 第10回 地域経済と財政②
- 第11回 財政分析①
- 第12回 財政分析②
- 第13回 レポート作成と報告
- 第14回 レポート作成と報告
- 第15回 レポート作成と報告

【履修上の注意事項】

第一回の演習の際履修上の注意事項を説明します。

【評価方法】

演習への出席状況、レポートの作成、報告を基に評価します。

【テキスト】

テキストは特に指定しません。

【参考文献】

①林義嗣著『地方財政』有斐閣ブックス、②地方財政白書、総務省

専門演習Ⅱ

担当教員 洲鎌 博克

配当年次 2年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

専門演習Ⅱ

担当教員 カレン ルーパース

配当年次 2年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

Continuation of seminar I, but with more freedom, and hopefully more English!

【授業の展開計画】

Students will individually and as groups determine the progress of the class.

Possibly there may be off-campus activities as well.

Emphasis is on creative exploration of possibilities.

【履修上の注意事項】

See seminar I, if you wish an explanation in Japanese.

【評価方法】

個人評価及び生徒間評価はこのコースの基盤となるものである。授業時間外の個人及びグループコンサルテーションが要求される。出席は必要不可欠である

【テキスト】

登録時に説明

【参考文献】

専門演習Ⅱ

担当教員 砂川 徹夫

配当年次 2年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

画像・映像処理、マクロ・VBAによるプログラミング等を通じて情報システム活用の高度化を図り、実践的情報処理技能を養成する。併せて、各自が自主的に取り組む卒業研究に向けた課題テーマの設定やテーマに関連する情報の収集・整理、研究計画書作成等を支援する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	画像データの編集・活用事例研究 1
2	画像データの編集・活用事例研究 2
3	課題処理 1
4	映像データの編集・活用事例研究 1
5	映像データの編集・活用事例研究 2
6	課題処理 2
7	マクロの活用事例研究 1
8	マクロの活用事例研究 2
9	VBAの活用事例研究 1
10	VBAの活用事例研究 2
11	VBAの活用事例研究 3
12	課題処理 3
13	研究計画書の作成指導 1
14	研究計画書の作成指導 2
15	課題処理 4
16	

【履修上の注意事項】

基本的には、情報処理概論、プログラミング理論、プログラミング演習、基礎演習等を修得していることが望ましい。

【評価方法】

課題や研究計画書等の提出、ゼミへの出席状況、資格取得への取り組み等を考慮して総合的に評価する。

【テキスト】

関連資料は、その都度配布する。その他、各ソフトのマニュアルや操作ガイド<Help機能>のほか、発表者作成資料等を使用して演習を進める。

【参考文献】

必要に応じてその都度、紹介する。

専門演習Ⅱ

担当教員 安里 肇

配当年次 2年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

情報技術全般に関する基本的な知識・技能をもつ者を目標に基本情報技術者試験が実施されているが、本演習では、この試験と連動した形で進め、基本的な情報技術を身につける。具体的な内容は、プログラミング言語 (java)、コンピュータネットワーク、データベース (SQL) が中心となる。また、上級情報処理士過程科目の「コンピュータ概論」は受講していること。演習の最後に演習Ⅲに向けた個別テーマを決定するのでそれまでに基礎知識を身につけて興味のある個別テーマを自ら探すようにして欲しい。

【授業の展開計画】

ゼミ運営ウェブサイトで公開する。

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	基本情報技術者試験の計算問題 1
3	基本情報技術者試験の計算問題 2
4	プログラミング言語 java 1 構造化プログラミング
5	プログラミング言語 java 2 ソート・サーチアルゴリズム
6	プログラミング言語 java 3 アプレット
7	プログラミング言語 java 4 オブジェクト指向
8	プログラミング言語 java 5 クラス
9	プログラミング言語 java 6 外部ファイルの読み込み
10	プログラミング言語 java 7 データベースとの連携
11	SQL
12	ネットワーク 1
13	ネットワーク 2
14	卒業論文テーマプレゼン
15	総括
16	

【履修上の注意事項】

原則として皆出席を求め、情報処理関連試験の受験を義務づける。また、演習時間以外にも課外活動 (情報関連シンポジウム参加、情報関連企業の現場訪問、情報系ゼミの卒論発表会参加等) を課すので、それに対応できるようにすること。javaの講義時には毎回課題レポートを課す。

【評価方法】

評価は出席状況や課題レポート・プレゼンにより総合的に判断する。

【テキスト】

開講時に指定する。

【参考文献】

開講時に指定する。

専門演習Ⅱ

担当教員 大井 肇

配当年次 2年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

専門演習Ⅰにおいて習得したハードウェア、ソフトウェアに関する基本的な知識および技術、さらには企業システムへの応用に関する理解の上に、システム構築を念頭においた問題の定義さらにはその解決策発案のための学習が必要となる。よって、実際に100%作り込まなければ動かないシビアなシステム開発に必須となるニーズの把握力、ロジカルな思考法、豊かな発想力、バグを追求する忍耐力などの精神面の養成も大切な目的となる。

【授業の展開計画】

- 1週目 FreeMind①(ダウンロードとインストール)
- 2週目 FreeMind②(実践的な活用法Ⅰ)
- 3週目 FreeMind③(実践的な活用法Ⅱ)
- 4週目 ロジカルシンキング①(ロジカルシンキングとは)
- 5週目 ロジカルシンキング②(意志決定への活用)
- 6週目 ロジカルシンキング③(説得力への活用)
- 7週目 ファシリテーション①(ファシリテーションとは)
- 8週目 ファシリテーション②(場のデザイン)
- 9週目 ファシリテーション③(合意形成のスキル)
- 10週目 システムによる問題解決①
- 11週目 システムによる問題解決②
- 12週目 システムによる問題解決③
- 13週目 UML①(オブジェクト指向)
- 14週目 UML②(ソフトウェアパターン)
- 15週目 UML③(ビジネスモデリング)
- 16週目 UML④(プロジェクトマネジメントへの活用)

【履修上の注意事項】

本講義受講のためには、「情報処理概論」、「プログラミング理論」の履修を条件とする。

【評価方法】

成績評価は、出席、受講態度、レポート(5回以上)、各種情報関連資格の取得状況に基づいて総合的に評価する。

【テキスト】

栢木 厚『栢木先生の初級シスアド教室—イメージ&クラブ方式でよくわかる』技術評論社・栢木 厚『1週間で分かる初級シスアド集中ゼミ』日本経済新聞社・河合 昭男他『明解UML—オブジェクト指向&モデリング入門』秀和システム

【参考文献】

トニー ブザン『人生に奇跡を起こすノート術—マインド・マップ放射思考』きこ書房・茂木 秀昭『ロジカル・シンキング入門』日経文庫、日本経済新聞社・堀 公俊『ファシリテーション入門』日経文庫、日本経済新聞社

専門演習Ⅱ

担当教員 兪 炳強

配当年次 2年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

今日、ITの発展の伴い、いわゆる「情報の産業化」が進み、新たなビジネスや産業が創出されている。同時に既存産業におけるITの活用により、いわゆる「産業の情報化」が進み、既存産業の効率化や発展が図られている。本演習では、インターネットや表計算ソフトなどを活用しながら、経済・産業に関するデータや情報の収集方法および分析方法を学習し、情報の収集力、問題の発見力・分析力を高めることを目標とする。

【授業の展開計画】

インターネットを活用した産業・経済データや情報の収集方法を学習しながら、Excelなどの統計ソフトを用いて産業・経済データや情報のビジュアル的分析手法および基礎的統計分析手法を学習する。また、後半には専門演習Ⅱ以降の学習に向けて、個別研究分野を設定するための文献学習やプレゼンテーションを行う。

【履修上の注意事項】

詳細については第一回の演習の時間に説明する。

【評価方法】

出席、課題の提出、報告レポートの作成、プレゼンテーションの状況に基づき総合的に評価を行う。

【テキスト】

テキストはとくに指定しないが、演習の内容に合わせて必要な文献を紹介し、適宜、プリントやPDFファイルを配布する。

【参考文献】

演習内容に合わせて適宜紹介する。

専門演習Ⅱ

担当教員 池宮城 尚也

配当年次 2年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

専門演習Ⅱの目的は、Microsoft Excelを利用した推測統計学・計量経済分析・経済理論モデルの学習を進めながら、金融経済論の研究対象になる事象を理解することである。分析するためのMicrosoft Excel操作を覚えるよりも、出力された分析結果を解釈する、理解力の養成が重要になる。受講生には、どの様にして利用したいデータを学習した分析方法に結びつけるのか、といった思考を積み重ねてもらいたい。なお、金融情報論Ⅱを必ず受講し、金融経済論の基礎知識を身につけておくこと。

【授業の展開計画】

- (1) 個々のデータに関する母集団・標本
- (2) 推測統計学とデータの適正
- (3) 時系列データと予測
- (4) 計量経済分析と出力結果の解釈
- (5) 計量経済分析と経済理論

【履修上の注意事項】

- (1) Excel操作より、計算結果の理解を要求する学習内容が多い。
- (2) 積極的な学習態度がなければ理解が困難な可能性があるため、注意すること。

【評価方法】

出席、理解状況等により、総合的に評価する。

【テキスト】

浅利一郎・土居英二他『第3版 はじめよう 経済学のための情報処理』日本評論社、2008年。

【参考文献】

- [1] 小川英治・地主敏樹・藤原秀夫他『金融論』有斐閣、2007年。
- [2] 伴金美・中村二郎・跡田直澄『エコノメトリックス(新版)』有斐閣、2006年。

専門演習Ⅱ

担当教員 富川 盛武

配当年次 2年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

専門演習Ⅰを踏襲し、テーマを決めて、資料収集、分析、プレゼン、総括をして社会・経済現象の理解力を高めしていく。将来の就職を見据えて、県内企業の訪問を行い、企業分析を行いつつ、現場を理解し、就職活動にも資する。

【授業の展開計画】

1. テーマ⑤と課題の設定
2. 資料の収集と統計・計量分析の仕方
3. 課題の発表とディスカッションと総括
4. テーマ⑥と課題の設定
5. 資料の収集と統計・計量分析の仕方
6. 課題の発表とディスカッションと総括
7. テーマ⑦と課題の設定
8. 資料の収集と統計・計量分析の仕方
9. 課題の発表とディスカッションと総括
10. テーマ⑧と課題の設定
11. 資料の収集と統計・計量分析の仕方
12. 課題の発表とディスカッションと総括
13. 企業視察の事前調査
14. 企業視察
15. 企業視察のまとめ

【履修上の注意事項】

毎回、テーマを決め、資料収集し、分析方法を基本から教え、発表やディスカッションの能力を高める。とにかく楽しいゼミにしたい。

【評価方法】

出席、発表、レポート等で総合的に評価する。

【テキスト】

一つのテキストを解説していくわけではないので指定しない。

【参考文献】

その都度、紹介する。

専門演習Ⅱ

担当教員 又吉 光邦

配当年次 2年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

前期と同様、本授業（専門演習）では、1年次までの情報処理の基礎の上に、さらに専門的なことを自ら探究心を持って目標を設定し、それを研究・学習し、最終的に卒業論文としてまとめることにある。

テーマによっては、フィールドワークや、学術学会等の大会での発表をめざす。学生個人の自主性とその研究対象のアイデアを尊重し、自律研究を遂行する積極的態度と研究成果を要求する。

【授業の展開計画】

情報処理の基礎的な学習を終え、自ら学会発表を行えるテーマやソフト開発などを行うが、それらに必要な研究・調査手法などを実践を通して学習する能力を身につける。

ゼミの卒業研究は、プログラミング言語Javaを中心にしたシステム開発になるグループと、琉球・沖縄関係を研究し、情報処理面、あるいは産業面からのアプローチを研究するグループに大別される。学生の自らが設定したテーマごとにシステムの開発・研究を行い、その進捗状況に応じてセミナー形式で行う。専門演習Ⅱと同様に、企業の方々との話し合いの場を設け、実務的な立場、社会人から見た場合の評価について学ぶことも行われる。

【履修上の注意事項】

礼儀・言葉づかい。

【評価方法】

セミナー出席10%、研究90%（発表含む）

【テキスト】

電子情報通信学会学会論文、電気学会論文、人工知能学会論文、情報処理学会論文、全国大会論文集、国際会議論文集、Java、Android関連書籍。琉球・沖縄関係の各種文献。

【参考文献】

遺伝的アルゴリズム関連本。進化計算手法に関する本。組合せ最適化手法に関する本。海外のProceedingsなど。EclipseやJava/Androidについて書かれた本。沖縄県内の図書館。

専門演習Ⅱ

担当教員 前村 昌健

配当年次 2年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

演習Ⅰで地域経済と地域財政についての基本事項を学習した後、演習Ⅱでは、特に沖縄県の振興と財政について取り上げます。沖縄県、市町村の財政の分析、地域振興における財政の役割等についてテーマを設定し、レポートとしてまとめ上げ、報告を行いプレゼンテーション力を高めます。テーマにそった議論を通じて問題整理力、考察力を養います。

【授業の展開計画】

- 第1回 演習Ⅱのオリエンテーション
- 第2回 地域経済と財政の役割①
- 第3回 地域経済と財政の役割②
- 第4回 沖縄県の地域振興と財政①
- 第5回 沖縄県の地域振興と財政②
- 第6回 沖縄県の地域振興と財政③
- 第7回 市町村の財政分析①
- 第8回 市町村の財政分析②
- 第9回 市町村の財政分析③
- 第10回 レポート作成①
- 第11回 レポート作成②
- 第12回 レポート作成③
- 第13回 レポート報告と質疑①
- 第14回 レポート報告と質疑②
- 第15回 レポート報告と質疑③

【履修上の注意事項】

第一回の演習の際に履修上の注意事項をお知らせします。

【評価方法】

演習への出席状況、レポート作成、報告の内容を見て評価します。

【テキスト】

テキストは特に設定しませんが、履修上の注意事項を確認してから購入して下さい。

【参考文献】

- ①林義嗣著『地方財政』、有斐閣ブックス、②地方財政白書、総務省

地域財政論 I

担当教員 前村 昌健

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

地方公共団体はこれまで国の財政と連携して、地域公共財の供給をはじめとした役割を果たしてきました。今日、地方分権の推進により、国と地方の役割分担、財源の配分をどのようにするのが大きな課題となっており、また、地方公共団体の地域公共財の供給、地域振興における役割が益々重要になってきています。講義では地方分権の流れや、全国の中でも財政依存の高い沖縄県の財政についても見ていきます。

【授業の展開計画】

- (1) 地域と財政①
- (2) 地域と財政②
- (3) 地方分権と国，地方の役割①
- (4) 地方分権と国，地方の役割②
- (5) 地域公共財①
- (6) 地域公共財②
- (7) 地方歳入について
- (8) 地方歳出について
- (9) 一般財源補填による財源調整①
- (10) 一般財源補填による財源調整②
- (11) 特定補助金のしくみと課題①
- (12) 特定補助金のしくみと課題②
- (13) 沖縄県の財政と課題①
- (14) 沖縄県の財政と課題②
- (15) 期末試験

【履修上の注意事項】

講義の第一回目に履修上の注意事項を説明します。教科書は、必ず履修上の注意を聞いてから購入してください。

【評価方法】

出席状況，課題レポートの提出状況，期末試験の結果を基に行います。

【テキスト】

- ① 「地方財政」，林宜嗣著，有斐閣ブックス，② 「地方財政白書」，自治省

【参考文献】

- ① 「地方財政読本」林健久編、東洋経済新報社、② 「分権社会の地方財政」林宏昭著、中央経済社

地域財政論Ⅱ

担当教員 前村 昌健

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

まず、地方分権と税財源の拡充，地方債，地方公営企業，第三セクター，都市の財政問題について理解を深めます。次に地方公共団体の地域振興における役割と産業振興における政策展開について取り上げます。今日，地域間の競争が高まる中で，地方公共団体の地域振興における役割が益々高まってきており，とくに産業振興について検討することが重要になってきています。

【授業の展開計画】

- (1) 地方分権と税財源の拡充①
- (2) 地方分権と税財源の拡充②
- (3) 地方債と財源調達の変力化
- (4) 地方公営企業と第三セクターの課題①
- (5) 地方公営企業と第三セクターの課題②
- (6) 高齢化と地方公共団体の役割
- (7) 都市財政①
- (8) 都市財政②
- (9) 地域振興と地方公共団体の役割①
- (10) 地域振興と地方公共団体の役割②
- (11) 産業振興と政策展開①
- (12) 産業振興と政策展開②
- (13) 情報化と地方公共団体の対応①
- (14) 情報化と地方公共団体の対応②
- (15) 期末試験

【履修上の注意事項】

地域財政論Ⅰを履修していることが望ましいが，地域財政論Ⅱからの受講も可能です。教科書は第一回の講義で報告を聞いてから購入して下さい。

【評価方法】

成績評価は，出席状況，課題レポートの提出状況，期末試験の結果を基に行います。

【テキスト】

- ①「地方財政」，林宜嗣著，有斐閣ブックス，

【参考文献】

- ①「地方財政」，橋本，牛島，米原，本間編有斐閣、②「地方財政白書」，総務省

データベース

担当教員 早乙女 理恵

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

プログラミング演習

担当教員 安里 肇・早乙女理恵・新任

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 4.0

【授業のねらい】

本講義は、「プログラミング理論」を履修しその講義内容を十分に理解している学生を対象に、実際のソフトウェア開発スキルの修得を目指すものである。プログラミング言語としてはJavaを用いるが、初心者にも十分習得できるようなカリキュラムとなるよう配慮している。Javaの文法をきちんと理解した上で、基本的なプログラムを読み書きできるようになることが重要である。後半では、オブジェクト指向の基本的な考え方を解説する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス	17	メソッド②
2	プログラミングとは何か	18	オブジェクト指向とは
3	javaの特長・プログラムの作成と実行	19	クラスの基本①
4	変数	20	クラスの基本②
5	キーボードからの入力方法	21	クラスの基本③
6	プログラムの流れの分岐①	22	クラス変数とクラスメソッド
7	プログラムの流れの分岐②	23	パッケージについて
8	プログラムの流れの繰り返し①	24	クラスの派生と多相性
9	プログラムの流れの繰り返し②	25	抽象クラス
10	基本形と演算①	26	文字と文字列
11	基本形と演算②	27	課題プログラミング①
12	配列①	28	課題プログラミング②
13	配列② 多次元配列	29	期末試験
14	中間試験	30	期末試験解答解説
15	中間試験解答解説	31	
16	メソッド①		

【履修上の注意事項】

- (1) 「情報処理概論」および「プログラミング理論」を履修した者の受講を求める。
- (2) 各週の学習内容に応じて、復習用の課題提出を義務付けるので、欠席者も含め必ず提出すること。
- (3) 出席日数が3分の2に満たない者には原則として単位を与えない。
- (4) 初回の講義に欠席した場合には登録を取り消す。欠席する場合には事前に連絡すること。

【評価方法】

中間試験、期末試験、レポートで250点、出席受講態度で50点の総合計により評価を行う。

【テキスト】

テキストは講義時に指定する。

【参考文献】

参考書は講義時に指定する。

会計コミュニケーション論

担当教員 伊礼 武志

配当年次 3年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

本講義において、会計を基本的に行動志向的なコミュニケーション・システムあるいはプロセスと捉え、そしてコミュニケーションにおける概念、命題およびモデルの会計研究への適用は、会計理論を深化、拡大させ、そしてその構造を精緻化するための有効な準拠枠を提供することができるという認識のもとに、特に、外部会計コミュニケーションへのその援用をはかり、会計コミュニケーションの有効性の問題について学習する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	コミュニケーションの概念
2	組織内コミュニケーション
3	組織外コミュニケーションと外部財務報告
4	外部会計コミュニケーションとコミュニケーション・アプローチ
5	外部会計コミュニケーション・プロセスのモデル
6	外部環境要素
7	人間的要素
8	外部会計コミュニケーションにおける事象
9	認識と測定
10	測定と目的適合性および検証可能性の関係
11	ゲートキーパーとしての経営者
12	ゲートキーパーとしての独立監査人
13	利用者による会計メッセージの受容、解釈および反応
14	フィードバック
15	まとめ「会計とコミュニケーション」
16	

【履修上の注意事項】

商業簿記 I レベルの知識を修得しておくこと。

【評価方法】

授業への出席状況（70%）、授業への参加姿勢（20%）、レポート（10%）とし評価する。

【テキスト】

伊礼武志 著「会計コミュニケーション論」（近代文芸社）

【参考文献】

伊礼武志 著「組織コミュニケーション論」（サン印刷）

伊礼武志 著「財務会計の理論」（近代文芸社）

会計情報論

担当教員 伊礼 武志

配当年次 3年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

企業の経営管理の効果的かつ能率的遂行に有用な価値計数的情報（つまり会計情報）を提供する役割をもつ会計が管理会計である。管理会計は錯綜したさまざまな経営意思決定問題の合理的な解決に資する創造的で革新的な価値計数的な技法や概念を不断に探求・開発することによって思考の深化と拡大をはかり、管理会計への役割期待に応えるべく日々進化を遂げてきた。本講義においては、管理会計を業績評価会計と意思決定会計に分類し、管理会計の諸理論、諸概念および諸技法について体系的に学習する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	企業と企業会計
2	企業会計情報の利用者
3	企業会計の2つの領域
4	管理会計の体系
5	短期利益計画と損益分岐点分析
6	予算管理
7	短期利益計画と直接原価計算
8	原価管理と標準原価計算
9	原価企画と原価管理
10	活動基準原価計算
11	事業部制と事業部制会計
12	意思決定のための原価概念
13	業務的意思決定
14	戦略的意思決定
15	まとめ
16	

【履修上の注意事項】

商業簿記 I レベルの知識を修得しておくこと。

【評価方法】

授業への出席状況（70%）、授業への参加姿勢（20%）、レポート（10%）とし評価する。

【テキスト】

伊礼武志 著「管理会計の理論」（サン印刷）

【参考文献】

伊礼武志 著「会計コミュニケーション論」（近代文芸社）

外書講読 I

担当教員 原田 真知子

配当年次 3年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

本講義は、データ解析や情報処理関連領域の外国文献・資料講読の積み重ねにより、大学での学習や卒業後の生活で英文文献・資料を利用できる能力を身につけることを目的に、外書講読I、IIで計30回の授業項目を編成します。

外書講読Iでは、英文読解の基礎となる力を段階的に伸ばし、英文を読む楽しさを感じることができるようになるレベルを目指します。

【授業の展開計画】

良質の英文エッセイの多読と関連するドキュメンタリー番組の反復視聴を通して、英文書講読の基礎となる総合的な英語運用能力を養練します。一人ひとりの英語運用能力の診断結果に基づき、段階的に英文読解の多様なストラテジー (Reading Strategy) や語彙力が身につくように進度を調整し講義を進めます。また、辞書の活用方法や語義の推測方法を、事例を取り上げながらわかりやすく説明します。

- 1回目 授業計画の説明、辞書の選び方、現時点での英文運用能力の実力測定
- 2回目 「データ・情報分析に関する海外ドキュメンタリー番組」の紹介と反復視聴、シナリオの英文構造分析
- 3回目 1) 海外ドキュメンタリー番組の視聴と英文解説 (前半25分)
2) 英文読解のストラテジーの練習① (後半60分)
- 4回目 1) 海外ドキュメンタリー番組の視聴と英文解説 2) 英文読解のストラテジーの練習②
- 5回目 1) 海外ドキュメンタリー番組の視聴と英文解説 2) 英文読解のストラテジーの練習③
- 6回目 1) 海外ドキュメンタリー番組の視聴と英文解説 2) 英文読解のストラテジーの練習④
- 7回目 1) 海外ドキュメンタリー番組の視聴と英文解説 2) 英文読解のストラテジーの練習⑤
- 8回目 1) 海外ドキュメンタリー番組の視聴と英文解説 2) 英文読解のストラテジーの練習⑥
- 9回目 1) 海外ドキュメンタリー番組の視聴と英文解説 2) 英文読解のストラテジーの練習⑦
- 10回目 1) 海外ドキュメンタリー番組の視聴と英文解説 2) 英文読解のストラテジーの練習⑧
- 11回目 1) 海外ドキュメンタリー番組の視聴と英文解説 2) 英語で学ぶComputer Basics ①
- 12回目 1) 海外ドキュメンタリー番組の視聴と英文解説 2) 英語で学ぶComputer Basics ②
- 13回目 1) 海外ドキュメンタリー番組の視聴と英文解説 2) 英語で学ぶComputer Basics ③
- 14回目 1) 海外ドキュメンタリー番組の視聴と英文解説 2) 英語で学ぶComputer Basics ④
- 15回目 全授業のポイントを復習、今後の学習指針
- 16回目 テスト： 総合的英語運用能力養練による到達力の診断

【履修上の注意事項】

1) 単に授業に出席するだけでなく、授業で使用した教材 (プリント、ドキュメンタリー番組のシナリオなど) を反復学習することによって、総合的な英語運用能力が上達します。必ず事前学習 (通読し、未知の単語を辞書でひく) と事後学習 (精読し、段落ごとに要約や試訳する) を行ってください。

2) 学習相談は授業終了直後とします。また、machiko@okiu.ac.jp にて常時、質問・相談を受け付けますので、気軽にメールしてください。

【評価方法】

出席と授業態度 (30%)、ワークシートの提出状況 (40%)、テストの相対評価 (30%) を勘案し成績を判定します。授業回数の3分の1以上欠席したものは不可としますので、注意してください。

【テキスト】

履修生の英語運用能力と共通の英文資料に合わせてプリントを作成し配布しますので、特に教科書を購入する必要はありません。プリントは「英文の読解ストラテジー」などの内容。 **必ず辞書を準備してください。

【参考文献】

Sofka, L. J. et al. "Click, Click, Double Click: Computer Basics," Asahi Press. Ushiro, Y. et al. "Reader's Ark: 20 Treasures of Effective Reading Techniques," Kinseido. その他は適宜紹介

外書講読Ⅱ

担当教員 原田 真知子

配当年次 3年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

本講義は、データ解析や情報処理関連領域の外国文献・資料講読の積み重ねにより、大学での学習や卒業後の生活で英文文献・資料を利用できる能力を身につけることを目的に、外書講読I、IIで計30回の授業を編成します。外書講読IIでは、Iの基礎的読解能力の養練に続き、共通の資料を講読しながら具体的な翻訳の仕方や内容理解の方法を楽しく学びます。1英語を専門課程を学ぶツールのみならず、グローバル化時代を生きていく上で必要な知識を得るためのツールとしての「英語への向き合い方」、2具体的な翻訳法、内容理解の方法を修得することを到達目標とします。

【授業の展開計画】

海外高級雑誌に連載された比較的難易度の高い英文論説の多読と海外ドキュメンタリー映画の反復視聴を通して、英文講読能力を養練します。また、共通の英文記事や論説を題材に、その解釈法や論旨に対する意見を議論することで、一人ひとりの語彙力と読解力を高めます。解釈法の解説の際は講師の翻訳経験で培った「翻訳と速読の具体的なテクニック」を紹介し、興味深く学べるように授業内容を工夫します。

- 1 授業計画の説明、辞書の選び方、現時点での英文運用能力の実力測定
- 2 「データ・情報分析に関する海外ドキュメンタリー映画」の解説、導入部の視聴と英文構造分析
- 3 1) 海外ドキュメンタリー映画の視聴とシナリオの英文構造分析 (前半25分)
2) 英文記事・論説①の英文構造分析と解説 (後半60分)
- 4 1) 映画の視聴とシナリオの英文構造分析 2) 英文記事・論説①の解釈法のディスカッション
- 5 1) 映画の視聴とシナリオの英文構造分析 2) 英文記事・論説②の英文構造分析と解説
- 6 1) 映画の視聴とシナリオの英文構造分析 2) 英文記事・論説②の解釈法のディスカッション
- 7 1) 映画の視聴とシナリオの英文構造分析 2) 英文記事・論説③の英文構造分析と解説
- 8 1) 映画の視聴とシナリオの英文構造分析 2) 英文記事・論説③の解釈法のディスカッション
- 9 1) 映画の視聴とシナリオの英文構造分析 2) 英文記事・論説④の英文構造分析と解説
- 10 1) 映画の視聴とシナリオの英文構造分析 2) 英文記事・論説④の解釈法のディスカッション
- 11 1) 映画の視聴とシナリオの英文構造分析 2) 英文記事・論説⑤の英文構造分析と解説
- 12 1) 映画の視聴とシナリオの英文構造分析 2) 英文記事・論説⑤の解釈法のディスカッション
- 13 1) 映画の視聴とシナリオの英文構造分析 2) 英文記事・論説⑥の英文構造分析と解説
- 14 1) 映画の視聴とシナリオの英文構造分析 2) 英文記事・論説⑥の解釈法のディスカッション
- 15 全授業のポイントを復習、これからの英語への向き合い方
- 16 テスト： 英文運用能力養練による到達力の診断

【履修上の注意事項】

- 1) 単に授業に出席するだけでなく、授業で使用した教材（プリント、ドキュメンタリー映画のシナリオなど）を反復学習することによって、総合的な英語運用能力が上達します。必ず事前学習（辞書をひき試訳または要約する）と事後学習（正式に翻訳し提出する、またはワークシートへの記入と見直し）を行ってください。
- 2) 学習相談は授業終了直後とします。また、machiko@okiu.ac.jp にて常時、質問・相談を受け付けますので、気軽にメールしてください。

【評価方法】

授業への参加姿勢とワークシートの提出状況（60%）、テストの相対評価（40%）を勘案し成績を判定します。授業回数数の3分の1以上欠席したものは不可としますので、注意してください。

【テキスト】

履修生の英語運用能力と共通の英文記事・論説資料に合わせてプリントを作成し配布しますので、特に教科書を購入する必要はありません。プリントは「読解から翻訳へのステップアップ」などの内容。*辞書持参のこと*

【参考文献】

Anderson, C. "The Internet: A Survey of Internet from the Economist", The Economist. Weld, P. "Views on the News: Media Literacy in the 21st Century" Kinseido. 他に、BusinessWeekなどの英文雑誌

企業情報論 I

担当教員 大井 肇

配当年次 3年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

ITの急速な発展を背景として、企業におけるIT活用の高度化はとどまることを知らない。次々と出現する技術あるいはコンセプトにより、この傾向はさらに加速度的に進行するものと思われる。本講義では、企業経営におけるITの役割に着目し、その段階的な進歩の過程と各フェイズにおける企業サイドからの情報システムへの期待の変容などをロジカルに考察しながらより定性的な理解を目指していく。

【授業の展開計画】

- 1 週目 情報の特質と価値
- 2 週目 情報技術の進化
- 3 週目 通信ネットワーク技術の進化
- 4 週目 セキュリティシステムと暗号化技術
- 5 週目 インターネットと企業
- 6 週目 ケーススタディー (1) : 情報化の歴史
- 7 週目 情報の産業化：情報産業の発展
- 8 週目 企業の情報化：企業における情報技術の活用
- 9 週目 情報技術と競争優位の戦略①
- 10週目 情報技術と競争優位の戦略②
- 11週目 知的財産権と競争優位
- 12週目 ケーススタディー (2) : 特許権と競争優位
- 13週目 ケーススタディー (3) : 著作権と競争優位
- 14週目 デファクト・スタンダードと競争優位
- 15週目 ケーススタディー (4) : デファクト・スタンダード
- 16週目 期末試験

【履修上の注意事項】

- (1) 成績は、期末試験、レポート、出席日数により総合的に評価する。
- (2) レポート作成の際には、インターネット等を利用した情報収集を要するため、基本的な情報検索技術が必須となる。
- (3) 出席日数が3分の2に満たない者には原則として単位を与えない。

【評価方法】

成績評価は、出席、受講態度、レポート（4回以上）、期末試験に基づいて総合的に評価する。なお講義内容は互いに密接に関連しているため可能な限りの出席を求める。

【テキスト】

資料については毎回配布する。

【参考文献】

- ・松岡正剛：『情報の歴史』NTT出版 ・山田英夫：『デファクト・スタンダードの経営戦略』中公新書

企業情報論Ⅱ

担当教員 大井 肇

配当年次 3年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

ITの発展は企業の高度情報化を促し、その構造を根本的に変革する重要なファクターとなっている。本講義では、企業情報論Ⅰで取り上げた企業と情報技術の多層的な関係を十分に理解したとの前提に基づき、企業における情報システムのマネジメントに着目し、様々なモデルにおける競争戦略上の優位性について解説する。また、電子商取引の実態を様々な側面から深く掘り下げることにより、企業立地や企業規模にとらわれないビジネスモデルの事例を紹介していく。

【授業の展開計画】

- 1週目 経営情報システムの進化
- 2週目 情報システムマネジメントの原理①
- 3週目 情報システムマネジメントの原理②
- 4週目 情報システムのマネジメントモデル
- 5週目 ITマネジメントとアウトソーシング
- 6週目 通信ネットワークを活用したアウトソーシング
- 7週目 ケーススタディ(1)：アウトソーシング
- 8週目 中小企業の情報システム
- 9週目 ECの現状
- 10週目 ケーススタディ(2)：EC向けASP
- 11週目 ECにおける法的課題
- 12週目 ビジネスモデル特許
- 13週目 遠隔地域における情報技術の戦略的活用
- 14週目 ロジスティックシステムとSCM
- 15週目 ケーススタディ(3)：物流の情報化
- 16週目 期末試験

【履修上の注意事項】

- (1) レポート作成の際には、インターネット等を利用した情報収集を要するため、基本的な情報検索技術が必須となる。
- (2) 出席日数が3分の2に満たない者には原則として単位を与えない。

【評価方法】

成績評価は、出席、受講態度、レポート（4回以上）、期末試験に基づいて総合的に評価する。なお講義内容は互いに密接に関連しているため可能な限りの出席を求める。

【テキスト】

テキストおよび資料については毎回配布する。

【参考文献】

- ・ゴードン B. デービス：『マネージング・インフォメーション』 ・ハーバート・ヒジネス・レビュー編：『ITマネジメント』

企業と産業財産権

担当教員 有賀 俊二

配当年次 3年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

経営情報システム論

担当教員 安里 肇

配当年次 3年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

企業経営における情報化や情報システム導入の利点を理解し、情報システムの重要性を学ぶ。経営情報システムの構成、経営情報システムによる効果、情報化のインパクトなどを中心に講義を進めていく。具体的には情報技術の経営・経済への応用事例や様々な分野の取り組みを概観する。特に、企業における先進的情報システムの事例を取り上げ、今後の展開としてどのような点が重要かを議論していく。また、意思決定システムやシミュレーション技術、ネットワーク技術、データベース技術などの工学的な要素も取り入れて考察していく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス ー情報システムとはー
2	経営情報システム
3	経営戦略と情報システム
4	意思決定支援システム
5	eビジネスモデル
6	データマイニングとマーケティング
7	中間試験
8	企業情報システムとERP
9	オブジェクト指向
10	ウェブテクノロジーとビジネスモデル1
11	ウェブテクノロジーとビジネスモデル2
12	データウェアハウスとデータベース技術
13	コンピュータネットワーク
14	最終試験
15	総括
16	

【履修上の注意事項】

第1週目に出席しない場合には登録を取り消す。

【評価方法】

評価は出席状況(30点)と2回の試験(200点)の合計点数より決定する。

【テキスト】

テキストは講義時に指定する。なお、ウェブサイトで講義時に使用するデータを公開する(講義で使用するパワーポイントでのテキストをPDF化し公開する)。

【参考文献】

講義時に紹介する。

国際経済学

担当教員 兪 炳強

配当年次 3年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

世界的に進展している経済活動のグローバル化の現状を把握し、その背後にあるメカニズムを理解するための国際経済学の基礎的理論を学習し習得すること。

【授業の展開計画】

本講義では国際経済学の基礎知識を理論的に講義する。

週	授 業 の 内 容
1	国際経済学とは何か
2	国際経済の動き
3	国際貿易の基礎理論 (1) 自由貿易の利益
4	国際貿易の基礎理論 (2) リカード・モデル
5	国際貿易の基礎理論 (3) ヘクシャー＝オーリン・モデル
6	新しい国際貿易の理論
7	中間まとめ
8	貿易政策
9	貿易と経済発展
10	生産要素の国際移動
11	国民所得と国際収支
12	為替レート
13	アジアの経済発展
14	中国の経済発展
15	まとめ
16	

【履修上の注意事項】

【評価方法】

学習態度や試験結果に基づき評価を行う。

【テキスト】

プリントやPDFファイルを配布する。

【参考文献】

澤田康幸『基礎コース国際経済学』新世社、井川一宏ほか『基礎 国際経済学』中央経済社、石井安憲ほか『入門・マクロ経済学』有斐閣、上野秀夫ほか『国際経済学』ミネルヴァ書房、など。

産業創造論

担当教員 城間 勇雄

配当年次 3年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

本講義では沖縄の産業創造を沖縄のおかれた地理的特性、歴史的な経緯とをふまえて、復帰後の沖縄振興開発計画及び沖縄振興計画、分野別計画の一つである産業振興計画を論じる。その上で沖縄経済の成長のエンジンである観光、情報、金融の各特区、泡盛、健康産業、特別自由貿易地域、物流に進み、特に専門性の高い分野では外部から現職の担当者に講義をサポートしてもらい具体的な講義内容にする。また、途中2回の振り返り・学生同士での討論を挟み全体として「考える」ことを重視した講義内容にする。
※沖縄の産業の未来について、自ら課題を設定し解決する思考習慣を培う。

【授業の展開計画】

第1週10/02 講義の目的 全体計画 講義概要 沖縄における産業創造とは一歴史の視点から見る沖縄の産業一
第2週10/09 世界経済の流れと沖縄の産業 ますますグローバル化する21世紀の経済一沖縄の立ち位置は一
第3週10/16 沖縄振興開発計画（第1次～第3次）と沖縄振興計画（2002年～2011年）
第4週10/23 沖縄産業振興計画（2002～2011）
第1次計画（2002～04）第2次計画（～07）第3次計画（～2011）
第5週10/30 振り返り・討論Ⅰ ◎第1回課題提示（11/06提出）
一沖縄はなぜ第3次産業が極端に肥大した産業構造になったか一
第6週11/06 沖縄の基幹産業 ①観光を切り口とした産業の創造
沖縄観光の変遷 観光を取り巻く経済環境 観光産業の未来
第7週11/13 沖縄の基幹産業 ②情報産業の現状と未来展望
IT津梁パーク・BPOセンター・・・沖縄の有望分野
第8週11/20 オキナワ型産業の戦略的展開 健康食品産業 バイオ関連産業 健康サービス産業 泡盛産業etc
第9週12/04 産学官共同研究事業と沖縄TLO 沖縄における産学連携の取り組み
第10週12/11 振り返り・討論Ⅱ ◎第2回課題提示（12/18提出）一これまでの沖縄産業の行く末一
第11週12/18 沖縄21世紀ビジョン 一県民が描く将来の沖縄像一
第12週01/08 沖縄における国際航空物流 アジアのハブ空港を目指して
第13週01/22 沖縄の雇用と労働 産業を支える労働の質と量
第14週01/29 産業創造論まとめ （◎最終総括課題01/29提出）
第15週02/05 予備日

※講義の進み具合によってカリキュラムを一部変更する場合があります。

【履修上の注意事項】

初回の講義（10月2日）で最終総括日（1月29日）に提出する総括レポートの課題を提示する。第2週目以降途中で2回の振り返り討論を挟み、この間に講義した内容について学生同士で議論し総括する。その際これまでに終えた講義に関するレポートの課題を提示する。（課題提示日10/30、12/11）それを翌週の講義開始前に提出のこと。その際、レポートと一緒にこれまでに終えた講義に対する感想、意見、要望を合わせて提出すること。

【評価方法】

試験は行わない。

- ・受講態度4割（講義出席6割未満は不可）
- ・途中2回の提示レポートの成績3割
- ・最終総括レポートの成績3割

【テキスト】

【参考文献】

産業ネットワーク論

担当教員 當銘 栄一

配当年次 3年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

ネットワークングにより経済主体は、時間、空間を克服し、遠隔地の他者との交流、調整が出来る。ネットワークの効率という情報化社会のメリットを駆使すれば資本、経営の規模を問わないビジネスが展開できる。ネットワークは大きな組織に組み込まれることなく、数の力が得られ、お互いに違うもの同士を引き合わせ、それぞれがお互いの知識や技術を補完することで一人ずつでは出来ないことを可能にする。産業発展におけるネットワークの役割について理論と事例をもとに楽しい講義したい。

【授業の展開計画】

- 1週目 ネットワークの概念規定
- 2週目 ネットワークの効率
- 3週目 経済発展とネットワーク
- 4週目 市場と組織、中間組織
- 5週目 ネットワークと取引コスト
- 6週目 ネットワークの形成理由と類型
- 7週目 ネットワークとイノベーション
- 8週目 分業ネットワークと企業発展
- 9週目 台湾の企業成長とネットワーク
- 10週目 台湾中小企業の分業システム ー外包制度と企業成長ー
- 11週目 台湾の企業適応とネットワーク
- 12週目 日本の下請け制度とネットワーク
- 13週目 日本企業成長とネットワーク
- 14週目 沖縄経済とネットワーク ー島嶼経済におけるネットワークの意義ー
- 15週目 ネットワークを土台にした産業 ー沖縄の情報金融特区の事例ー

【履修上の注意事項】

講義は用語や手法、理論を積み上げていく、積み木のような構成になっているので休まないこと。

【評価方法】

期末テストを中心に評価するが、適宜小テストやレポートを課して総合的に評価する。

【テキスト】

一つのテキストを講義する手法はとらず、適宜参考資料を提供しつつ、講義する。

【参考文献】

(1) 南部鶴彦他「ネットワーク産業の展望」日本評論社、(2) 辻正次他「ネットワーク未来」日本評論社、(3) 安田雪「ネットワーク分析」ワードマップ、(4) 富川盛武「台湾の企業成長とネットワーク」白桃書房

情報通信ネットワーク論

担当教員 又吉 光邦

配当年次 3年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

インターネットや携帯メールなどに代表される通信手段は、今や基本的コミュニケーションの手段として、その地位を浮動のものにしているばかりでなく、ますます発展する兆しを見せている。今や電子通信機器無しで生活することさえ不可能となりつつある。

この授業では、ネットワークの概念、携帯、機器、プロトコルなど、現代社会に必須なネットワークの基礎知識と現在進行中の技術開発の動向を踏まえて学習する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	WWWでみるネットワークの仕組み
2	インターネットを支えるプロトコル (TCP/IP)
3	インターネットを支える技術Ⅰ パケット、プロトコル
4	インターネットを支える技術Ⅱ IP, TCP, UDP, DNS, 各種アプリケーションプロトコル
5	ネットワークを構成する各種技術
6	組織内ネットワークで使われる技術
7	インターネットとセキュリティⅠ ファイアウォール、暗号
8	インターネットとセキュリティⅡ 通信経路の暗号化、各種攻撃手法と対策
9	ISP同士はどのようにつながっているのかⅠ インターネットガバナンス
10	ISP同士はどのようにつながっているのかⅡ IXとBGP、IPアドレスの割り当て
11	サーバ公開に当たっての実務
12	監視と冗長化Ⅰ ネットワーク監視
13	監視と冗長化Ⅱ ネットワークの冗長化
14	IPv6のⅠ IPv6の特徴
15	IPv6のⅡ IPv6の今後 テスト
16	

【履修上の注意事項】

おしゃべりは、厳しく取り締まります。

【評価方法】

テスト・授業態度

【テキスト】

『これだけは知っておきたい ネットワークの常識』, 坪井義浩・工藤修一・佐野裕 (技術評論社)。

【参考文献】

インターネット上に公開されている、情報通信ネットワークに関する文献・情報。

情報マネジメント演習

担当教員 砂川 徹夫

配当年次 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

本演習では、情報化先進企業の情報管理・活用事例等を通して、情報化の目的、運用管理体制、導入し活用されている情報システム、経営者意識や情報化人材の育成、情報セキュリティ等多角的視点での情報管理の評価分析視点を理解させる。そして、その理解を踏まえて、2～4人のグループ単位で「県内組織体（企業等）の情報管理実態・意向調査」の課題を与え、分析報告と発表等を行うことでより情報管理に対する理解を深める。

【授業の展開計画】

- 1 週目 情報特性と情報管理
- 2 週目 情報化レベルの把握
- 3 週目 情報システムの構築の基本ステップ
- 4 週目 適用業務別システムの概要と特徴
- 5 週目 情報化先進企業の事例研究 1
- 6 週目 情報化先進企業の事例研究 2
- 7 週目 情報化先進企業の事例研究 3
- 8 週目 情報化先進企業の事例研究 4
- 9 週目 情報化先進企業の事例研究 5
- 10 週目 各グループ調査企業の事例発表 1
- 11 週目 各グループ調査企業の事例発表 2
- 12 週目 各グループ調査企業の事例発表 3
- 13 週目 各グループ調査企業の事例発表 4
- 14 週目 各グループ調査企業の事例発表 5
- 15 週目 期末試験

【履修上の注意事項】

前期開講の「情報マネジメント論」受講者を優先する。また、受講者全員に、2～4人のグループ単位で「企業における情報管理実態・意向調査」に関する課題を与え、レポート提出、パワーポイントを利用した発表を行う。

【評価方法】

評価は出席、課題提出、発表、学期末試験等を勘案して行う。

【テキスト】

砂川徹夫『情報マネジメント論講義テキスト』

【参考文献】

プリント配布や必要に応じて参考文献等を紹介する。

情報マネジメント論

担当教員 砂川 徹夫

配当年次 3年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

本講義では、第4の経営資源としての”情報”の特質や企業経営等における情報の役割を明らかにし、情報を効果的・効率的に運用管理する方式としての情報管理の概念や意義、情報管理システムの構成要素である情報処理システム、情報源（データベース）、情報化人材、運営システム等について体系的に理解させる。

特に、情報ネットワークやマルチメディア環境の進展を踏まえて、インターネット活用と情報モラル、デジタルコンテンツと知的財産権、個人情報の保護、情報セキュリティ等の最新動向について理解を深める。

【授業の展開計画】

- 1週目 情報技術の進展と情報管理の現状
- 2週目 情報管理の情報概念と特性
- 3週目 情報価値とナレッジマネジメント
- 4週目 情報行動と意思決定
- 5週目 情報管理の基本プロセスとマネジメントの概念
- 6週目 情報の収集と生成のマネジメント
- 7週目 情報の蓄積・分析のマネジメント
- 8週目 情報コミュニケーションのマネジメント
- 9週目 情報マネジメントと情報システム
- 10週目 情報マネジメントと人材
- 11週目 情報マネジメントと組織
- 12週目 情報共有と情報モラル、プライバシー保護
- 13週目 デジタルコンテンツと知的財産権
- 14週目 情報ネットワークとセキュリティ管理
- 15週目 情報マネジメント分野の最新動向

【履修上の注意事項】

情報処理概論や産業情報論、産業情報分析等を受講していることが望ましい

【評価方法】

評価は出席、学期末試験、課題提出等を勘案して行う。

【テキスト】

砂川徹夫『情報マネジメント論講義テキスト』

【参考文献】

講義の理解度を考慮して授業中に参考文献を提示するかコピーを配布する。

政策過程の数量分析論

担当教員 廣瀬 牧人

配当年次 3年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

地方分権が本格的に進展する中、地域の自律的な政策構築が不可欠となっている。本講義では、地方公共団体の農業政策決定過程を対象として、制度や背景となる理論及び定量的実証分析の方法について講義を行う。職業生活において必須である、組織的意志決定過程における現実対応能力と論理的思考能力の涵養を促すことを目的とする。

【授業の展開計画】

本講義では、公共選択論及び行動科学等の分野における研究成果を援用しながら、政策決定過程参加者の行動様式に関わる理論と実証の両面から講義を展開する。

週	授 業 の 内 容
1	講義のフレームワーク
2	政治家の得票最大化行動と官僚の獲得予算最大化行動
3	地方政府の予算編成過程
4	農業政策執行過程における地方政府の役割
5	予算に関わる首長と議会の権限関係
6	予算編成過程における官僚の行動様式
7	類型化と分類（主成分分析とクラスター分析）
8	地域の農村的特性と政党基盤 1（地域の農村的特性）
9	地域の農村的特性と政党基盤 2（地域の農村的特性と政党別得票及び当選議席）
10	多重共線性とリッジ回帰
11	地域の就業構造と政党の得票構造
12	政党得票率と集票基盤
13	潜在変数モデル（共分散構造モデル、因子分析）
14	農業財政支出規模の決定に関わる政治家の影響力構造
15	要約と結論
16	

【履修上の注意事項】

(1) 講義はステップ・バイ・ステップで進めるので、出席を重視する。講義内容を理解して貰うための出席要求であるので、厳に自覚すること。

(2) 講義内容や自習方法等に関する質問等については個別対応するので、積極的に取り組んで欲しい。

(3) 講義内容の理解を容易にするために『データ解析論 I・II』を履修することが望ましい。

【評価方法】

成績の評価は、出席状況及び試験（若しくは提出されたレポート）によって行う。なお、再試験・追試験は行わない。

【テキスト】

講義で使用する資料は配付する。

【参考文献】

『日本経済の制度分析』，青木昌彦，筑摩書房，1992. 『計量政治学』，小林良彰，成文堂，1990. 『現代政治叢書10 公共政策』，薬師寺泰蔵，東京大学出版会，1989

専門演習Ⅲ

担当教員 洲鎌 博克

配当年次 3年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

専門演習Ⅲ

担当教員 砂川 徹夫

配当年次 3年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

専門演習Ⅰ・Ⅱを受けて、各自の研究計画書に基づく課題研究について、参考文献、資料収集、フィールド調査及び分析、情報システム開発等を適宜支援し、最終的には卒業論文として提出を求め、研究発表を行う。

随時、各自の遂行状況を把握するため、輪番による中間発表を実施する。

【授業の展開計画】

1週目 課題研究に向けての心構えや年間スケジュール等のオリエンテーション

2～14週目 各自の輪番による課題発表と質疑

15週目 全員による課題研究の中間発表

【履修上の注意事項】

専門演習Ⅰまたは専門演習Ⅱで砂川ゼミ（または情報関係ゼミ）を受講していること。

【評価方法】

ゼミへの出席状況、中間発表や最終発表、卒業論文提出等を考慮して総合的に評価する。

【テキスト】

ゼミ生各自の発表資料

【参考文献】

必要に応じてその都度紹介する。

専門演習Ⅲ

担当教員 安里 肇

配当年次 3年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

本演習では、演習Ⅰ・Ⅱで学んだ基本的な情報技術をベースにして、個別テーマを決定し、各自が深く掘り下げて考察を行っていく。また、実際の企業ではどのような情報技術が必要でどのような人材が求められているのかなどを、インターンシップ企業を紹介しながら解説していく。夏期休業中に実施される長期企業インターンシップに向けての心構えや関連技術のeラーニングコンテンツなどの取り扱いについても説明する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	コンテンツ系卒論の説明
3	システム設計系卒論の説明
4	株価シミュレーション系卒論の説明
5	マーケティングリサーチ・ウェブプロモーション系卒論の説明
6	卒業論文と就職希望業種との連携
7	eラーニングコンテンツの説明
8	インターンシップ企業の紹介と将来の職業について
9	卒業論文個別テーマのプレゼンテーション1
10	卒業論文個別テーマのプレゼンテーション2
11	卒業論文個別テーマのプレゼンテーション3
12	インターンシップに向けての心構え 何を学ぶのか？
13	インターンシップに向けての課題(コンテンツ系の場合)
14	インターンシップに向けての課題(システム設計系の場合)
15	卒業論文中間発表・総括
16	

【履修上の注意事項】

原則として皆出席を求め、企業インターンシップへの参加を義務づける。

【評価方法】

評価は出席状況や試験の結果により総合的に判断する。

【テキスト】

開講時に指定する。

【参考文献】

開講時に指定する。

専門演習Ⅲ

担当教員 廣瀬 牧人

配当年次 3年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

専門演習Ⅰ～Ⅳを通して、様々な情報の中から将来予測や意志決定に必要な意味のある情報を見つけ出すための手法の習得と、企業等の実務現場での応用能力を涵養することを目的とする。具体的には、コンピュータを用いて、経済学・統計学等を実生活に役立てる方法（例えば県産品の販売戦略等）について、学生の主体的な参加を前提として、演習を運営する。なお、具体的で実践的な方法論の習得を図るため、演習で使用するデータは、サイコロ、トランプ、食味アンケート等、可能な限り受講者自らが行う実験により収集する。

【授業の展開計画】

期中より、自由研究に基づく成果をもとに、各自個別にプレゼンテーション資料を作成し、発表して頂く。「卒業研究中間報告」はこのためのものである。専門演習Ⅲ・Ⅳでは、卒業研究（自由課題）を遂行するために必要な洞察力や実践応用力の涵養に主眼を置く。専門演習Ⅲでは、論理性と数量的・客観的判断能力の習熟に重点を置く。なお、専門演習Ⅰ～Ⅳの中で積み上げた課題発表に基づく卒業研究を学年末に提出して頂く。

週	授 業 の 内 容
1	推論・分析力1
2	推論・分析力2
3	推論・分析力3
4	推論・分析力4
5	資料解釈1
6	資料解釈2
7	資料解釈3
8	資料解釈4
9	卒業研究中間報告1（目安：（個別報告20分+コメント10分+質疑応答15分/1人）×2人）
10	卒業研究中間報告2（目安：（個別報告20分+コメント10分+質疑応答15分/1人）×2人）
11	卒業研究中間報告3（目安：（個別報告20分+コメント10分+質疑応答15分/1人）×2人）
12	卒業研究中間報告4（目安：（個別報告20分+コメント10分+質疑応答15分/1人）×2人）
13	卒業研究中間報告5（目安：（個別報告20分+コメント10分+質疑応答15分/1人）×2人）
14	卒業研究中間報告6（目安：（個別報告20分+コメント10分+質疑応答15分/1人）×2人）
15	卒業研究中間報告7（目安：（個別報告20分+コメント10分+質疑応答15分/1人）×2人）
16	

【履修上の注意事項】

(1) 演習はステップ・バイ・ステップで進めるので、出席を重視する。方法、意味を理解し、実践応用が行えるようになるための出席要求であるので、厳に自覚すること。

(2) 演習内容や自習方法等に関する質問等については個別対応するので、積極的に取り組んで欲しい。

(3) 自由研究の内容を充実を図るために、『データ解析論Ⅰ・Ⅱ』、『産業関連論』及び『政策過程の数量分析論』を履修することが望ましい。

【評価方法】

成績の評価は、出席状況、演習時の報告・討論内容、卒業論文に基づき行う。なお、再試験・追試験は行わない。

【テキスト】

卒業論文作成に向けた洞察力と応用力の涵養が中心となるため、特に指定はしないが、受講者個々の進度に応じて随時・適宜に指示する。

【参考文献】

(1) 『経済分析のための統計学入門』, 原田明信, 創成社, 2001. (2) 『初歩からの計量経済学』, 白砂堤津耶, 日本評論社, 1998. (3) 『応用計量経済学Ⅰ』, 高木康順・秋山裕・田中辰雄, 多賀出版, 1998.

専門演習Ⅲ

担当教員 大井 肇

配当年次 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

開講当初はハード、ソフト等に関する基本的な知識の修得を目指し、その成果として各種情報処理関連資格（ITパスポート、CG検定、マルチメディア検定、画像処理検定等）の取得を義務付ける。またこうした情報処理に関する基本的な知識の上に、避けては通れないモノ作りにも重点を置きながら、実際に100%作り込まなければ動かないシビアなシステム開発を体験してもらいたい。卒業研究のテーマに関しては、個人の興味ある研究対象を優先的に割り当てるので、是非とも積極的な研究姿勢を見せてもらいたい。

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

本講義受講のためには、「専門演習Ⅰ」、「専門演習Ⅱ」、「情報処理概論」、「プログラミング理論」、「プログラミング演習」の履修を条件とする。

【評価方法】

出席、受講態度、レポート、各種情報関連資格の取得状況、卒業研究論文、卒業研究発表会におけるプレゼンテーションに基づき総合的に評価する。

【テキスト】

適宜講義内容に最もふさわしいと思われるテキストを紹介していく。テキストはかなりの冊数になると思われるが必ず購入するようにしてもらいたい。

【参考文献】

自ら進んで考え、自分のレベルに合ったものを必要に応じて購入するようにしてもらいたい。

専門演習Ⅲ

担当教員 平良 直之

配当年次 3年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

近年のマイクロエレクトロニクス分野の進歩による計算機の高性能低価格化にともない、情報処理技術を用いて、業務を効率的に行いたいというニーズが高まっている。また、近年の複雑化した経済現象を分析する上で、情報処理技術は欠かすことのできないものである。本演習では、専門演習Ⅱで身につけたプログラミング技能を基に、卒業研究を行うことを目的とする。

【授業の展開計画】

本演習では、専門演習Ⅰ・Ⅱで身につけたプログラミング技能および研究テーマに関する調査結果を基に議論する。具体的には、各受講者の担当スケジュールを第1回の授業で決め、担当スケジュールに沿って、卒業研究の進捗状況を報告してもらう。

【履修上の注意事項】

- ①本演習は、情報処理システムの構築を必須とする。
- ②本演習では、受講生に対して事前に課題を与え、その報告を踏まえて講義を進めていく。
- ③出席状況を重視し、講義の3分の1以上欠席したものは原則として不可とするので注意すること。
- ④本演習で取り組んだ内容は卒業論文としてまとめるので、4年次において「卒業論文」を必ず履修すること。

【評価方法】

課題提出および出席状況により評価する。

【テキスト】

未定（第一回目の講義の際に連絡します）。

【参考文献】

未定（第一回目の講義の際に連絡します）。

専門演習Ⅲ

担当教員 池宮城 尚也

配当年次 3年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

専門演習Ⅲでは、金融経済を対象とした卒業研究に着手する。受講生には、計量経済分析またはファイナンス分析を研究分野として決定し、分析手法を習得してもらう。いずれも、Microsoft Excelを利用した分析手法である。分析手法を習得するには、単に教科書の内容どおりにMicrosoft Excelを操作するだけでなく、分析手法に適した研究対象のデータを選択する能力が必要になる。なお、ファイナンシャルエコノミクスⅠを必ず受講すること。

【授業の展開計画】

- (1) 研究分野の決定：計量経済分析またはファイナンス分析
- (2) 分析ツールの学習：研究分野の教科書を利用した実習
- (3) 分析ツールの習得：教科書を利用した出力結果の理解
- (4) 研究テーマの選択：テーマの論拠となる文献・資料の決定
- (5) 研究対象のデータを特定・収集
- (6) 研究テーマに沿った分析手法の決定

【履修上の注意事項】

- (1) Excel操作より、計算結果の理解を要求する学習内容が多い。
- (2) 積極的な学習態度がなければ理解が困難な可能性があるため、注意すること。

【評価方法】

出席、理解状況等により、総合的に評価する。

【テキスト】

- [1] 浅利一郎・土居英二他『第3版 はじめよう 経済学のための情報処理』日本評論社、2008年。
- [2] 滝川好夫・前田洋樹『Excelで学ぶファイナンス④ 金融モデル実用の基礎』金融財政事情研究会、2006年。

【参考文献】

- [1] 小川英治・地主敏樹・藤原秀夫他『金融論』有斐閣、2007年。
- [2] 釜江廣志・北岡孝義他『証券論』有斐閣、2004年。

専門演習Ⅲ

担当教員 又吉 光邦

配当年次 3年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

専門演習Ⅲでは、自ら探究心を持って目標を設定した課題について研究を深めることにある。学生によっては、学術学会の支部大会や全国大会での発表であるので、それに向けた取り組みを論理的・科学的に押し進める。学生個人の自主性とその研究対象のアイデアを尊重し、自律研究を遂行する積極的態度和研究成果を要求する。起業を積極的に進める学生は、その過程を記した報告書を卒業研究・論文として認める。

【授業の展開計画】

Javaのプログラミングを必須とする学生は、2年次までに基礎を修得しておくことが大切である。また、論理的な思考を尊重する学生、あるいは論理的思考を身につけたいと望むように日々精進できることが望ましい。沖縄関連、琉球古典への卒業研究では、表現方法についての学習をしておくことが望ましい。起業を目指す学生は、IT-Frogsの活動や沖縄県や沖縄のITベンチャー企業の方々との積極的な交流を望む。専門演習Ⅰ・Ⅱと同様に、企業の方々との話し合いの場を設け、実務的な立場、社会人から見た場合の評価について学ぶことも行われる。

【履修上の注意事項】

礼儀・言葉遣い。

【評価方法】

セミナー出席10%、研究90%（中間発表）

【テキスト】

電子情報通信学会学論文、電気学会論文、人工知能学会論文、情報処理学会論文、全国大会論文集、国際会議論文集、Java、Android関連書籍、沖縄・琉球古典に関する各種文献。

【参考文献】

遺伝的アルゴリズム関連本。進化計算手法に関する本。組合せ最適化手法に関する本。海外のProceedingsなど。EclipseやJava、Android、Rubyについて書かれた本。シリコンバレーに関する図書や、起業に関する図書。

専門演習Ⅲ

担当教員 カン ルーダス

配当年次 3年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

In process of development. This course may be team-taught.

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

専門演習Ⅲ

担当教員 兪 炳強

配当年次 3年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

本演習では、地域産業・経済などに関するデータや情報の分析を通じて、問題の発見力と分析力を高めるとともに、地域産業や経済の問題点を考察し、持続的地域発展を図るための諸方策を探究する。

【授業の展開計画】

専門演習ⅠおよびⅡの学習成果を踏まえ、個別に設定した研究分野に関連したデータや情報を収集するとともに、多変量解析など統計的分析手法を学習しながら、分析結果の取り纏めやプレゼンテーションを行う。

【履修上の注意事項】

詳細については第一回の演習の時間に説明する。

【評価方法】

出席、課題の提出、報告レポートの作成、プレゼンテーションの状況に基づき総合的に評価を行う。

【テキスト】

テキストはとくに指定しないが、演習の内容に合わせて必要な文献を紹介し、適宜、プリントやPDFファイルを配布する。

【参考文献】

演習内容に合わせて適宜紹介する。

専門演習Ⅳ

担当教員 洲鎌 博克

配当年次 3年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

専門演習Ⅳ

担当教員 砂川 徹夫

配当年次 3年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

専門演習Ⅲに引き続き、各自の研究計画書に基づく課題研究について、参考文献、資料収集、フィールド調査及び分析、情報システム開発等を適宜支援し、最終的には卒業論文として提出を求め、研究発表を行う。

随時、各自の遂行状況を把握するため、輪番による中間発表を実施する。

【授業の展開計画】

- 1 週目 課題研究に向けての心構えやスケジュール等のオリエンテーション
- 2～10週目 各自の輪番による課題研究発表と質疑
- 11週目 全員による最終発表
- 12～15週目 課題研究レポート作成指導と校正・論文集作成指導

【履修上の注意事項】

専門演習Ⅲ（砂川）を修得した者を優先する。

【評価方法】

ゼミへの出席状況、発表・質疑の状況、課題発表、レポートの内容等を考慮して総合的に評価する。

【テキスト】

特になし。ゼミ生各自が調べてきた配布資料

【参考文献】

必要に応じてその都度紹介する。

専門演習Ⅳ

担当教員 安里 肇

配当年次 3年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

本演習は演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲおよび企業インターンシップで学んだ基本的小および実践的情報技術の中で、特に興味のある事柄にテーマを絞り、各自、考察を進めていく。1月には個別テーマ毎にプレゼンテーションを行い、その成果を公開する。4年次配当科目の「卒業論文」に向けた最終準備科目である。

【授業の展開計画】

1 2月末のプレゼンテーションに向けて、中間発表やグループディスカッションにより、個別テーマの考察を行う。

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	コンテンツ系卒論の目標設定
3	システム設計系卒論の目標設定
4	株価シミュレーション系卒論の目標設定
5	マーケティングリサーチ・ウェブプロモーション系卒論の目標設定
6	個別報告(プレゼン) 1
7	個別報告(プレゼン) 2
8	個別報告(プレゼン) 3
9	個別報告(プレゼン) 4
10	個別報告(プレゼン) 5
11	個別報告(プレゼン) 6
12	個別報告(プレゼン) 7
13	個別報告(プレゼン) 8
14	卒業論文最終発表
15	総括
16	

【履修上の注意事項】

4年次配当科目の「卒業論文」を受講希望しない学生は登録を行わない。後の「卒業論文」と密接にリンクしているので、卒業論文作成を念頭に置いたテーマ設定、プレゼンテーションが望まれる。

【評価方法】

評価はプレゼンテーションの内容により判断する。

【テキスト】

なし。

【参考文献】

開講時に個別テーマ毎に指定する。

専門演習Ⅳ

担当教員 廣瀬 牧人

配当年次 3年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

専門演習Ⅰ～Ⅳを通して、様々な情報の中から将来予測や意志決定に必要な意味のある情報を見つけ出すための手法の習得と、企業等の実務現場での応用能力を涵養することを目的とする。具体的には、コンピュータを用いて、経済学・統計学等を実生活に役立てる方法（例えば県産品の販売戦略等）について、学生の主体的な参加を前提として、演習を運営する。なお、具体的で実践的な方法論の習得を図るため、演習で使用するデータは、サイコロ、トランプ、食味アンケート等、可能な限り受講者自らが行う実験により収集する。

【授業の展開計画】

期首より、自由研究に基づく成果をもとに、各自個別にプレゼンテーション資料を作成し、発表して頂く。「卒業研究中間報告」はこのためのものである。専門演習Ⅲ・Ⅳでは、卒業研究（自由課題）を遂行するために必要な洞察力や実践応用力の涵養に主眼を置く。専門演習Ⅳでは、卒業研究の完成を目指して、論旨の構成やプレゼンテーション資料の作成方法の習熟に重点を置く。なお、専門演習Ⅰ～Ⅳの中で積み上げた課題発表に基づく卒業研究を学年末に提出して頂く。

週	授 業 の 内 容
1	論理の構成1-1（事象の順序だて：演習（1回目））
2	論理の構成1-2（事象の順序だて：演習（2回目））
3	論理の構成2-1（分析フレームワークの構築：演習（1回目））
4	論理の構成2-2（分析フレームワークの構築：演習（2回目））
5	論理の構成3-1（具体的な分析手法：演習（1回目））
6	論理の構成3-2（具体的な分析手法：演習（2回目））
7	論理の構成4-1（分析結果の整理：演習（1回目））
8	論理の構成4-2（分析結果の整理：演習（2回目））
9	卒業研究中間報告8（目安：（個別報告20分+コメント10分+質疑応答15分/1人）×2人）
10	卒業研究中間報告9（目安：（個別報告20分+コメント10分+質疑応答15分/1人）×2人）
11	卒業研究中間報告10（目安：（個別報告20分+コメント10分+質疑応答15分/1人）×2人）
12	卒業研究中間報告11（目安：（個別報告20分+コメント10分+質疑応答15分/1人）×2人）
13	卒業研究中間報告12（目安：（個別報告20分+コメント10分+質疑応答15分/1人）×2人）
14	卒業研究中間報告13（目安：（個別報告20分+コメント10分+質疑応答15分/1人）×2人）
15	卒業研究中間報告14（総括）
16	

【履修上の注意事項】

(1) 演習はステップ・バイ・ステップで進めるので、出席を重視する。方法、意味を理解し、実践応用が行えるようになるための出席要求であるので、厳に自覚すること。

(2) 演習内容や自習方法等に関する質問等については個別対応するので、積極的に取り組んで欲しい。

(3) 自由研究の内容を充実を図るために、『データ解析論Ⅰ・Ⅱ』、『産業関連論』及び『政策過程の数量分析論』を履修することが望ましい。

【評価方法】

成績の評価は、出席状況、演習時の報告・討論内容、卒業論文に基づき行う。なお、再試験・追試験は行わない。

【テキスト】

卒業論文作成に向けた洞察力と応用力の涵養が中心となるため、特に指定はしないが、受講者個々の進度に応じて随時・適宜に指示する。

【参考文献】

(1)『経済分析のための統計学入門』, 原田明信, 創成社, 2001. (2)『初歩からの計量経済学』, 白砂堤津耶, 日本評論社, 1998. (3)『応用計量経済学Ⅰ』, 高木康順・秋山裕・田中辰雄, 多賀出版, 1998.

専門演習Ⅳ

担当教員 大井 肇

配当年次 3年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

開講当初はハード、ソフト等に関する基本的な知識の修得を目指し、その成果として各種情報処理関連資格（ITパスポート、CG検定、マルチメディア検定、画像処理検定等）の取得を義務付ける。またこうした情報処理に関する基本的な知識の上に、避けては通れないモノ作りにも重点を置きながら、実際に100%作り込まなければ動かないシビアなシステム開発を体験してもらいたい。卒業研究のテーマに関しては、個人の興味ある研究対象を優先的に割り当てるので、是非とも積極的な研究姿勢を見せてもらいたい。

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

本講義受講のためには、「専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「情報概論」、「プログラミング理論」、「プログラミング演習」の履修を条件とする。

【評価方法】

出席、受講態度、レポート、各種情報関連資格の取得状況、卒業研究論文、卒業研究発表会におけるプレゼンテーション等に基づき総合的に評価する。

【テキスト】

適宜講義内容に最もふさわしいと思われるテキストを紹介していく。テキストはかなりの冊数になると思われるが必ず購入するようにしてもらいたい。

【参考文献】

自ら進んで考え、自分のレベルに合ったものを必要に応じて購入するようにしてもらいたい。

専門演習Ⅳ

担当教員 平良 直之

配当年次 3年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

近年のマイクロエレクトロニクス分野の進歩による計算機の高性能低価格化にともない、情報処理技術を用いて、業務を効率的に行いたいというニーズが高まっている。また、近年の複雑化した経済現象を分析する上で、情報処理技術は欠かすことのできないものである。本演習では、これまでに身につけたプログラミング技能を基に、卒業研究を行うことを目的とする。

【授業の展開計画】

本演習では、専門演習Ⅲに引き続き、各受講者の研究テーマについて理解し合い、研究内容を議論する。具体的には、各受講者の担当スケジュールを第1回の授業で決め、担当スケジュールに沿って、卒業研究の進捗状況を報告してもらう。また、各受講者の進捗状況を考慮し、研究成果の報告会を開催する。

【履修上の注意事項】

- ①本演習は、情報処理システムの構築を必須とする。
- ②本演習では、各受講生の研究成果を報告会にて発表することを義務づける。
- ③出席状況を重視し、講義の3分の1以上欠席したものは原則として不可とするので注意すること。
- ④本演習で取り組んだ内容は卒業論文としてまとめるので、4年次において「卒業論文」を必ず履修すること。

【評価方法】

課題提出および出席状況により評価する。

【テキスト】

未定（第一回目の講義の際に連絡します）。

【参考文献】

未定（第一回目の講義の際に連絡します）。

専門演習Ⅳ

担当教員 池宮城 尚也

配当年次 3年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

専門演習Ⅳでは、金融経済を対象とした卒業研究を進行させる。受講生が行なう金融経済の研究は、データを収集し、計量経済分析またはファイナンス分析を行い、理論的な判断基準に基づいて出力結果の解釈を積み重ねるものである。効率的に卒業研究を進めるために、研究領域・データに対応した理論の理解を重視することになる。1月末にテーマ別に卒業研究の報告を行うため、受講生には卒業研究としての成果を要求する。なお、ファイナンス経済学Ⅱを必ず受講すること。

【授業の展開計画】

- (1) 研究テーマと問題意識の具体化：卒業研究の構成
- (2) 参考文献・資料の決定と収集
- (3) 研究領域・データに対応した理論の決定と理解
- (4) 研究テーマに沿った分析
- (5) 分析結果の解釈：出力結果と理論の対応
- (6) 卒業研究の報告

【履修上の注意事項】

卒業研究としての成果を要求するので、講義時間外の研究作業が不可欠になる。

【評価方法】

卒業研究の進行状況によって評価する。

【テキスト】

- [1] 浅利一郎・土居英二他『第3版 はじめよう 経済学のための情報処理』日本評論社、2008年。
- [2] 滝川好夫・前田洋樹『Excelで学ぶファイナンス④ 金融モデル実用の基礎』金融財政事情研究会、2006年。

【参考文献】

- [1] 小川英治・地主敏樹・藤原秀夫他『金融論』有斐閣、2007年。
- [2] 釜江廣志・北岡孝義他『証券論』有斐閣、2004年。

専門演習Ⅳ

担当教員 又吉 光邦

配当年次 3年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

専門演習Ⅳでは、専門演習Ⅲまでの情報処理の基礎の上に、さらに専門的なことを自ら探究心を持って目標を設定した課題について研究成果をまとめ・発表することにある。

学生個人の自主性とその研究対象のアイデアを尊重し、自律的な研究を遂行する積極的な態度と研究成果を要求する。起業を行う学生は、指導教員と報告・連絡・相談を密にして商品や起業スタイルの確立を目指す。

【授業の展開計画】

専門演習Ⅳでは、プログラミング言語Javaを中心にしたオリジナル・システムの開発を行う学生と、沖縄関連、あるいは起業関連について学生の自らが設定したテーマごとにシステムの開発／研究を行い、その進捗状況に応じてパワーポイントを用いた発表を通してセミナー形式で行う。

研究の発表が、必須。決められた時間内に研究で得た成果を発表しなければならない。企業の方々からの実務的な指摘、社会人から見た場合の評価について、議論を深めることも行われる。

【履修上の注意事項】

セミナー出席10%、研究90%（発表）

【評価方法】

学会での発表（人工知能学会全国大会、電気学会全国大会、情報処理学会全国大会、電機関連学会九州支部連合大会、火の国シンポジウム）。起業。地域産業へのアプローチ。

【テキスト】

電子情報通信学会会誌・論文、電気学会会誌・論文・全国大会論文集、人工知能学会会誌・論文・全国大会論文集、情報処理学会会誌・論文・全国大会論文集。沖縄／琉球関連図書。起業／産業関連図書。

【参考文献】

遺伝的アルゴリズム関連本。進化計算手法に関する本。組合せ最適化手法に関する本。海外のProceedingsなど。EclipseやJava, Android, Rubyについて書かれた本。沖縄関係の図書や、シリコンバレーに関する図書。

専門演習Ⅳ

担当教員 カレン ルパードス

配当年次 3年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

In process of development. Please inquire directly from Karen Lupardus in 9-502 or contact her by email at strangedays-okinawa@docomo.ne.jp

English is recommended...Japanese will result in a slower response, for sure!

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

専門演習Ⅳ

担当教員 兪 炳強

配当年次 3年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

本演習では、地域産業・経済などに関するデータや情報の分析を通じて、問題の発見力と分析力を高めるとともに、地域産業や経済の問題点を考察し、持続的・地域発展を図るための諸方策を探究する。

【授業の展開計画】

専門演習Ⅰ～Ⅲの学習成果を踏まえ、個別に設定した研究テーマに関連したデータや情報を収集・分析・研究するとともに、研究成果の取り纏めおよびプレゼンテーションを行い、卒業論文の枠組みを構築する。

【履修上の注意事項】

詳細については第一回の演習の時間に説明する。

【評価方法】

出席、課題の提出、報告レポートの作成、プレゼンテーションの状況に基づき総合的に評価を行う。

【テキスト】

テキストはとくに指定しないが、演習の内容に合わせて必要な文献を紹介し、適宜、プリントやPDFファイルを配布する。

【参考文献】

演習内容に合わせて適宜紹介する。

地域産業政策論

担当教員 當銘 栄一

配当年次 3年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

地域資源経済論 I

担当教員 兪 炳強

配当年次 3年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

地域における産業経済活動と地域資源環境問題との相互関係についての理解を深め、理論的実践的知識を習得する。

【授業の展開計画】

本講義では、主として経済学の視点から、地域における産業経済活動と資源環境問題との相互関係について理論的実証的に講義を行う。前半では、地域資源問題および地域資源の利用と保全に関わる基礎的内容について理解を深め、後半では、観光資源に着目し、その評価、利用と保全のあり方について考察する。

週	授 業 の 内 容
1	いまなぜ地域資源問題か
2	資源問題と資源経済学
3	資源問題の展開とその根源
4	資源問題の基本概念（1）
5	資源問題の基本概念（2）
6	再生可能資源の経済学
7	枯渇性資源の経済学
8	中間まとめ
9	地域資源の特性と活用
10	地域資源の再評価
11	観光資源の開発と活用
12	観光資源の評価（1）
13	観光資源の評価（2）
14	観光資源の評価（3）
15	まとめ
16	

【履修上の注意事項】

【評価方法】

学習態度や試験結果に基づき評価を行う。

【テキスト】

PDFファイルやプリントなどを配布する。

【参考文献】

岩淵孝『現代世界の資源問題入門』大月書店、J.M.コンラッド『資源経済学』岩波書店、時政島ほか『環境と資源の経済学』勁草書房、ほか。

地域資源経済論Ⅱ

担当教員 兪 炳強

配当年次 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

地域における産業経済活動と地域資源環境問題との相互関係について理解を深め、環境資源経済分析に関わる理論的実践的知識を習得する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション
2	環境資源問題の諸相
3	経済発展と環境資源問題
4	環境・資源と経済
5	市場の機能
6	市場の失敗
7	環境政策の原則と手段
8	中間まとめ
9	コマンド・アンド・コントロール戦略：環境基準
10	誘因に依拠する政策戦略：排出課徴金と補助金
11	誘因に依拠する政策戦略：排出権
12	環境資源評価の経済理論
13	環境価値の評価方法（1）
14	環境価値の評価方法（2）
15	まとめ
16	

【履修上の注意事項】

【評価方法】

学習態度や試験結果に基づき評価を行う。

【テキスト】

PDFファイルやプリントなどを配布する。

【参考文献】

時政島ほか『環境と資源の経済学』勁草書房、バリー・C・フィールド『環境経済学入門』日本評論社、環境経済・政策学会編『環境経済・政策学の基礎知識』有斐閣ブックス、など。

地域発展論

担当教員 當銘 栄一

配当年次 3年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	地域の定義・地域分析の手法
2	地域経済の成長・発展論
3	地域人口分析・少子化と地域人口の変化
4	地域産業政策、産業創造
5	産業立地・企業立地論
6	地域の産業構造
7	産業ネットワーク、産業クラスター
8	地域振興論、地域振興の事例、経済特区
9	地域政策評価、費用便益分析
10	まちづくり、コミュニティビジネス
11	地域収支論
12	沖縄の経済振興策、自立経済論
13	沖縄における地域分析の意義
14	
15	
16	

【履修上の注意事項】

分析手法を習得しつつ、理論を積み上げるいわば積み木のような構成になっているため、休まないこと。コンピューター教室も使用する。

【評価方法】

期末テストを中心に評価するが、適宜小テストも行う。

【テキスト】

一つのテキストを講義する手法はとらないが、薦める文献は、原勲「地域経済学の新展開」多賀出版である。

【参考文献】

1. 鳥居泰彦「経済発展理論」東洋経済新報社、2. 宮沢健一「産業の経済学」東洋経済新報社、3. 大友篤「地域分析入門」東洋経済新報社、4. 富川盛武・百瀬恵夫「沖縄経済・産業自立化への道」白桃書房

知的情報処理

担当教員 平良 直之

配当年次 3年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

今日の企業においては、変動の激しい市場や社会からの多様な要求に対して迅速かつ柔軟に 대응していくことが必要である。このことを実現するためには、経験や勘に頼るだけでなく、得られた情報を柔軟に捉え知的に処理するための理論的枠組みが重要となる。本講義では、人間の嗜好や予測を定量的に扱う概念として知られるファジィ理論を中心に、知的情報処理について学習する。

【授業の展開計画】

本講義では、不確定情報や主観的判断の計測、知的尺度、推論などの概念とこれらを扱う手法やアルゴリズムについて学ぶ。具体的には、次の計画のもとで授業を展開する予定であるが、受講生の状況に応じて予定を変更することがあるので留意すること。

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス
2	知的情報処理の概要
3	情報と曖昧さ(1)
4	情報と曖昧さ(2)
5	不確定情報の処理(1)
6	不確定情報の処理(2)
7	知的尺度の処理(1)
8	知的尺度の処理(2)
9	知的尺度の処理(3)
10	システム制御とファジィ関係(1)
11	システム制御とファジィ関係(2)
12	システム制御とファジィ関係(3)
13	知的情報処理と推論アルゴリズム(1)
14	知的情報処理と推論アルゴリズム(2)
15	知的情報処理と推論アルゴリズム(3)
16	

【履修上の注意事項】

第1回目より講義を開始する。第1回目に欠席した者は、登録を取り消すこともあるので注意すること。

【評価方法】

試験結果, 出席状況, レポートにより評価する。

【テキスト】

開講時に指定する。

【参考文献】

- ・中島信之：『ファジィ数学のおはなし』倍風館(1997)
- ・井上洋、天笠美知夫：『ファジィ理論の基礎』朝倉書店(1997)

地理情報システム論

担当教員 渡辺 康志

配当年次 3年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

本講義は実際にGISソフトを操作し、地理情報システムの基本概念を学ぶ講義である。GISソフト基本操作とデータ取り扱い方法を習得することを目的とする。本講義では、地理情報システム（GIS）基本概念の習得を目的としたデータ処理演習を行う。GISデータ処理演習ではGISソフトの基本操作を中心に、GISデータ表示方法、基本的なデータ処理方法を演習形式で学習する。

【授業の展開計画】

- 第1回 オリエンテーション(講義計画、評価方法等の説明)
- 第2回 地理情報システム概要
- 第3回 GISソフト基本操作（ソフト及びデータの基本操作法）
- 第4回 ベクトルデータ（ベクトルGISデータの特徴とその操作・表示法）
- 第5回 ラスターデータ（ラスターGISデータの特徴とその操作・表示法）
- 第6回 レイヤー管理（GISデータのオーバーレイ）
- 第7回 主題図1（ベクトルデータの個別値主題図の作成）
- 第8回 属性情報（属性情報の操作方法及びインポート）
- 第9回 主題図2（各種主題図作成と高度利用法）
- 第10回 GISデータの検索（属性値によるベクトルデータの検索）
- 第11回 ラスターデータ作成（国土地理院地形図の利用法とモザイク処理）
- 第12回 ベクトルデータ作成法1（ポイントデータの作成法）
- 第13回 ベクトルデータ作成法2（ライン・ポリゴンデータの作成法）
- 第14回 GISデータのインポート（各種GISデータの利用法）
- 第15回 期末レポート作成（GISデータの総合利用によるレポート作成、提出）

【履修上の注意事項】

情報処理基礎等の情報関連単位を履修済みであること。特に本講義はGISソフトを操作しながら学ぶ形式であるため、毎回出席すること。コンピュータ・ソフトの台数に制約があるためその上限数を越える場合は抽選となる。

【評価方法】

実習形式の講義のため、毎講義時作成或いは処理したデータの提出を課す。また、期末試験としてGISデータを処理して作成するレポートを課す。成績は毎講義時の提出データ（60%）及び期末レポートの内容（40%）を総合して判断する。

【テキスト】

「GIS自習室」古今書院。また、補完的にレジュメを配布する。

【参考文献】

“Geographic Information Systems and Science” JOHN WILEY & SONS, LTD/張長平著『空間データ分析』古今書院/地理情報システム学会編『地理情報科学事典』朝倉書店

データ解析論 I

担当教員 平良 直之

配当年次 3年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

データ解析論Ⅱ

担当教員 平良 直之

配当年次 3年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

パブリックファイナンス

担当教員 前村 昌健

配当年次 3年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

公共部門（中央政府、地方公共団体、等）の役割は、市場を通じては供給不可能か困難である公共財を供給すること及び民間部門（家計、企業）の経済活動を促す枠組みを整えることにある。本講義では公共部門の中でも中央政府の役割、機能について中心に取り上げる。中央政府は、租税や公債を通じた財源調達、公的な消費、投資、移転といった支出により民間部門と関係し、市場やわが国全体としての経済に大きな影響を及ぼす

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	市場と公共部門の役割①
2	市場と公共部門の役割②
3	財政のしくみ①
4	財政のしくみ②
5	租税について①
6	租税について②
7	公債について
8	公共支出について①
9	公共支出について②
10	財政政策①
11	財政政策②
12	財政赤字と財政の持続可能性
13	情報化と公共部門の役割①
14	情報化と公共部門の役割②
15	期末試験
16	

【履修上の注意事項】

講義の第一回目に履修上の注意事項を説明します。教科書は、必ず履修上の注意を聞いてから購入してください。

【評価方法】

成績評価は、出席状況、課題レポートの提出状況、期末試験の結果を基に行います。

【テキスト】

テキストは第一回目の講義で連絡します。連絡を受けてから購入して下さい。

【参考文献】

①「財政学」林宜嗣、新世社、②「日本の財政改革」青木昌彦・鶴光太郎編著、東洋経済

ビジネス実務演習

担当教員 砂川 徹夫・安井 季美子

配当年次 3年

単位区分 必

関連資格

備考 資格科目

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4.0

【授業のねらい】

本演習では、ビジネス現場の実際を理解すると共に、情報システムの活用技術の習得やビジネスにおける中核を担う人間形成そのものに焦点を当て、現場で役に立つ面接表現（応酬話法）、接客技術、礼儀作法、IT技術等を学習する。

【授業の展開計画】

1 週目	オフィスワーカーの役割	16 週目	オフィス業務の基本知識
2 週目	聞き方の基本と実際	17 週目	情報技術の基本知識
3 週目	話し方の基本と実際	18 週目	ビジネス文書作成、編集、管理
4 週目	文書表現の基本と実際	19 週目	表計算処理、グラフ作成
5 週目	文書表現の事例検討	20 週目	表計算処理（データ管理）
6 週目	接客マナーの基本と実際	21 週目	グループウェア（情報共有）
7 週目	応対の基本と実際	22 週目	グループウェア（スケジュール管理）
8 週目	礼儀作法の基本と実際	23 週目	インターネット（情報の収集）
9 週目	会社の仕組みと組織	24 週目	インターネット（情報の発信）
10 週目	会社の規律と勤務条件	25 週目	ビジュアルな企画書の作成
11 週目	仕事に対する基本姿勢	26 週目	プレゼンテーション技法
12 週目	ビジネスの実際（1）	27 週目	ビジネス実務課題1（グループ研究）
13 週目	ビジネスの実際（2）	28 週目	ビジネス実務課題2（グループ研究）
14 週目	ビジネスの実際（3）	29 週目	課題発表（グループ発表）
15 週目	前期試験	30 週目	課題発表（グループ発表）

【履修上の注意事項】

課程科目ですので、卒業単位にはなりません。また、登録履修には、4単位4000円の単位料が必要です。

【評価方法】

出席、課題演習、演習レポート提出、プレゼンテーション等を通して総合評価し、80点以上が優、70点以上が良、60点以上が可と評価し単位を与える。

【テキスト】

実際のビジネス現場で使用されている資料等をもとに、その都度、プリント教材を作成し配布する。

【参考文献】

ファイナンシャルエコノミクスⅠ

担当教員 池宮城 尚也

配当年次 3年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

Microsoft Excelを活用しながら、ファイナンス分野で利用される基本計算を理解することがファイナンシャルエコノミクスⅠの目的である。学習の対象は家計(個人)と企業の金融行動である。講義では様々な計算方法を実習することになる。①学習内容は貯蓄・借入という実生活の問題である、②学習対象の金融行動と身近な金融行動では何が違うのか、の2点に常に注意してに学習することが、理解をすすめるコツである。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	経済活動とファイナンス：イントロダクション
2	ファイナンスの基礎概念の計算1：現在価値と将来価値、内部収益率
3	ファイナンスの基礎概念の計算2：積立預金の将来価値
4	ファイナンスの基礎概念の計算3：均等返済スケジュール
5	ファイナンスの基礎概念の計算4：年金の問題
6	学習内容の復習1
7	資本コストの計算1：株主資本コスト
8	資本コストの計算2：負債コスト
9	資本コストの計算3：加重平均資本コスト
10	1資産のリターンとリスク
11	学習内容の復習2
12	ポートフォリオ計算の基礎1
13	ポートフォリオ計算の基礎2
14	ポートフォリオ計算の基礎3
15	学習内容の復習3 16回目に期末試験を行なう。
16	

【履修上の注意事項】

- (1) 登録調整期間に欠席した場合は、登録を取り消すことがある。出席できない場合は、事前に連絡すること。
- (2) Excel操作より、計算結果の理解を要求する学習内容が多い。
- (3) 1つ1つ積み重ねていく形で講義内容が進展していくため、出席を重視する。

【評価方法】

出席、講義中の学習状況、提出物、試験等により、総合的に評価する。

【テキスト】

滝川好夫・前田洋樹『Excelで学ぶファイナンス④ 金融モデル実用の基礎』金融財政事情研究会、2006年。

【参考文献】

- [1] 滝川好夫『チャートでわかる 入門ファイナンス理論』日本評論社、2007年。
- [2] 野口悠紀雄『ビジネスに活かす ファイナンス理論入門』ダイヤモンド社、2004年。

ファイナンシャルエコノミクスⅡ

担当教員 池宮城 尚也

配当年次 3年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

Microsoft Excelを活用しながら、ファイナンス分野で多用される具体的な分析方法を理解することがファイナンシャルエコノミクスⅡの目的である。受講生には、①日常的な銀行預金による貯蓄方法、②証券会社を利用した貯蓄方法、の2つの違いに常に注意する習慣を身に付けてもらいたい。この目的を持つことで、なぜファイナンス分野で数学が多く利用されるのかが納得でき、実生活で役立つイメージがわくと考えている。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ファイナンスの基本計算：イントロダクション
2	1 資産のポートフォリオ計算
3	2 資産のポートフォリオ計算
4	効率的フロンティアと資本市場線 1：4 資産のポートフォリオ
5	効率的フロンティアと資本市場線 2：Excel操作による理解
6	効率的フロンティアと資本市場線 3：モデル式の理解
7	効率的フロンティアと資本市場線 4：無リスク資産と資本市場線
8	効率的フロンティアと資本市場線 5：まとめ
9	学習内容の復習 1
10	資本資産市場モデル 1：ベータ・リスクの推定
11	資本資産市場モデル 2：証券市場線
12	学習内容の復習 2
13	ブラック・ショールズ・モデル 1：オプションの理論①
14	ブラック・ショールズ・モデル 2：オプションの理論②
15	学習内容の復習 3 16回目に期末試験を行なう。
16	

【履修上の注意事項】

- (1) 登録調整期間に欠席した場合は、登録を取り消すことがある。出席できない場合は、事前に連絡すること。
- (2) Excel操作より、計算結果の理解を要求する学習内容が多い。
- (3) 1つ1つ積み重ねていく形で講義内容が進展していくため、出席を重視する。

【評価方法】

出席、講義中の学習状況、提出物、試験等により、総合的に評価する。

【テキスト】

滝川好夫・前田洋樹『Excelで学ぶファイナンス④ 金融モデル実用の基礎』金融財政事情研究会、2006年。

【参考文献】

- [1] 滝川好夫『チャートでわかる 入門ファイナンス理論』日本評論社、2007年。
- [2] 野口悠紀雄『ビジネスに活かす ファイナンス理論入門』ダイヤモンド社、2004年。

ベンチャー起業論

担当教員 大嶺 聡

配当年次 3年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

学生ベンチャー企業の起業事例や成功しているベンチャー企業事例などを参考に、ビジネスプラン成功のポイントを学ぶ。また、グループ演習をとおして、ビジネスアイデア発想やビジネスプラン作成を体験し、起業におけるビジネスアイデアの重要性とビジネスプランの必要性を理解する。
また、起業家の起業動機や体験談、そこで培った知識やノウハウなどを聴講し、ベンチャーマインドや起業時における具体的な成功ポイントを学ぶ。

【授業の展開計画】

ベンチャー企業の成功ポイントを講義し、グループ演習をとおして、ビジネスアイデア発想方法とビジネスプラン作成方法について学習する。また、起業家に起業の動機や体験談などを講話してもらい、起業時における考え方や取り組み方など、具体的な成功のポイントを学ぶ。

外部講師 (1) 銘苅 康弘氏 (財)沖縄県産業振興公社 専門コーディネーター、中小企業診断士
(2) 比屋根 隆氏 (株)レキサス 代表取締役社長、沖縄国際大学卒の学生起業家

週	授 業 の 内 容
1	第1週目(4/19) : 概要説明 講義内容及び全体計画の説明
2	第2週目(4/17) : 講義1 (ベンチャー企業事例、ビジネスアイデア発想法)
3	第3週目(4/24) : 講義2 (成功する経営戦略)
4	第4週目(5/ 1) : 講義3 (「ケースメソッド」：外部講師1)
5	第5週目(5/ 8) : 演習1 (ビジネスアイデア①の発表、グループ編成)
6	第6週目(5/15) : 演習2 (グループ演習：ビジネスアイデア①)
7	第7週目(5/22) : 演習3 (グループ演習：ビジネスアイデア①)
8	第8週目(5/29) : 演習4 (中間発表①)
9	第9週目(6/5) : 演習5 (グループ演習：ビジネスアイデア②)
10	第10週目(6/12) : 演習6 (グループ演習：ビジネスアイデア②)
11	第11週目(6/19) : 演習7 (中間発表②)
12	第12週目(6/26) : 演習8 (アイデア選考と最終発表まとめ)
13	第13週目(7/3) : 演習9 (ビジネスアイデア・コンテスト発表及び表彰・講評)
14	第14週目(7/10) : 講義4 (「ベンチャー企業経営について」：外部講師2)
15	第15週目(7/17) : 講義まとめ
16	

【履修上の注意事項】

【評価方法】

試験は行いません。課題として、受講者全員にビジネスアイデアを提出してもらいます。
また、グループ毎に演習で作成するワークシートの提出とビジネスアイデアを発表してもらいます。
受講態度及び演習への取り組み姿勢、提出物、出席状況を考慮し、総合評価いたします。
講義を4回以上欠席した場合は、無条件で不可となります(ただし、適切な欠席理由があり、また、欠席届を提出している場合は除きます)。

【テキスト】

【参考文献】

マルチメディア論

担当教員 中西 利文

配当年次 3年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

情報とメディア，人間と人間，及び人間とコンピュータのコミュニケーションとメディアテクノロジーとの関係を中心に講義を行う。特にマルチメディアの特性について考察し，その利用による効果を考える。情報の表現，つまり，各種メディアをコンピュータで処理するためのデータの表現方法や，データに対するデジタル処理に関する問題，マルチメディア情報を取り扱う上での基礎知識（ハードウェアとソフトウェア），メディアリテラシーと社会倫理，画像及び動画データ処理の説明も行う。

【授業の展開計画】

- 1 講義ガイダンス マルチメディアとは？
- 2 コミュニケーションと情報？
- 3 インターネットとマルチメディア？
- 4 マルチメディアの構成要素（1）音声情報
- 5 マルチメディアの構成要素（2）画像情報
- 6 マルチメディアの構成要素（3）映像情報
- 7 中間試験
- 8 CG作成技術について（1）グラフィックソフト、CAD
- 9 CG作成技術について（2）3Dモデリングソフト
- 10 CG作成技術について（3）アニメーション
- 11 映像処理 ストリーミング技術
- 12 マルチメディアの活用例
- 13 マルチメディアの発達をもたらす社会
- 14 最終試験
- 15 試験解答・総括

【履修上の注意事項】

情報処理概論，プログラミング理論を履修した者のみ登録を受け付け，この科目を履修しないとマルチメディア実習（教職科目；集中講義）は登録できない。マルチメディア実習を受けるための基礎科目である。なお，第1週目に出席しない場合には登録を取り消す場合がある。

【評価方法】

試験および出席状況を総合的に判断し評価する。

【テキスト】

テキストは講義開始時に指定する。なお，ウェブサイトで講義時に使用するデータを公開する（講義で使用するパワーポイントでのテキストをPDF化し公開する）。

【参考文献】

講義時に使用するデータで随時紹介する。

卒業論文

担当教員 前村 昌健

配当年次 4年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4.0

【授業のねらい】

演習Ⅰ～Ⅳで学習した論文作成の知識を基に卒業論文を仕上げる。各自の研究テーマにそって、論文の構成、情報・文献収集と分析、論文の執筆、プレゼンテーションという順序を進める。テーマにそって論理的に議論を展開する力、文章としてまとめる力、最終的な結論を導き出し、自らの考えを提示する力を身につける。

【授業の展開計画】

- 1～2週目：卒業論文についての基本指導①②
- 3～8週目：テーマの確定と文献・情報の収集・分析
- 9～15週目：各自の中間報告にむけての取り組み
- 16～20週目：中間報告、輪番制による報告と質疑
- 21～24週目：各自の最終報告にむけての取り組み
- 25～28週目：卒業論文の完成と最終報告、質疑
- 29～30週目：卒業論文の修正と最終完成、提出

【履修上の注意事項】

演習Ⅲ～Ⅳを受講した学生を優先する

【評価方法】

演習の出席状況、卒業論文及びプレゼンテーションの内容を考慮して総合的に評価する

【テキスト】

演習の時間に適宜、必要な文献について紹介する

【参考文献】

演習の時間に各自のテーマに関係のある参考文献を紹介する

卒業論文

担当教員 砂川 徹夫

配当年次 4年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4.0

【授業のねらい】

各自の研究計画書に基づく課題研究について、参考文献、資料収集、フィールド調査及び分析、情報システム開発等を適宜支援し、最終的には卒業論文として提出を求め、研究発表を行う。

随時、各自の遂行状況を把握するため、輪番による中間発表を実施する。

【授業の展開計画】

- 1 週目 卒論研究に向けての心構えやスケジュール等のオリエンテーション
- 2～14週目 各自の輪番による課題研究発表と質疑
- 15週目 全員による卒論中間発表会
- 16～24週目 各自の輪番による課題研究発表と質疑
- 25週目 全員による卒論最終発表会
- 26～30週目 卒論研究レポート作成指導と校正・論文集作成指導

【履修上の注意事項】

小生担当の専門演習Ⅲ、Ⅳを修得した者を優先する。

【評価方法】

ゼミへの出席状況、発表・質疑の状況、卒論発表、卒論レポートの内容等を考慮して総合的に評価する。

【テキスト】

特になし。ゼミ生各自が調べてきた配布資料

【参考文献】

必要に応じてその都度紹介する。

卒業論文

担当教員 安里 肇

配当年次 4年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4.0

【授業のねらい】

演習Ⅳにおいて演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲおよび企業インターンシップで学んだ基本および実践的情報技術の中で、特に興味のある個別テーマを選定し、調査研究した結果をプレゼンテーションしたが、卒業論文では、その内容をさらに深化させて、卒業研究論文を作成する。

【授業の展開計画】

個別テーマをさらに深化させ、定期的に卒論報告会を実施する。報告会の中では、他の学生の卒業論文に対する意見や疑問などを議論して、お互いの研究内容を理解していく。個別テーマとしては下記のような具体的なテーマを設定している。

- Javaを利用したシステム設計
- 株価シミュレーションシステムおよび経営分析システム
- Flashを用いた教育支援ツールの作成
- MAYAを利用したコンピュータグラフィックス制作（マルチメディア学校案内）
- eマーケットプレースの現状と課題
- PHP, Perl, JavaScriptを用いたツールおよびアプリケーション作り
- ICタグの可能性およびマーケティングリサーチ

【履修上の注意事項】

基本的に演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳからの持ち上がりになる。他の教員の演習を履修した学生は受け入れない（ただし、事前に自分の卒業論文のプレゼンテーションを行い認められた場合は受け入れる）。また、演習Ⅲ、Ⅳとの同時受講は認める。

【評価方法】

制作した卒業論文を評価する。

【テキスト】

特になし

【参考文献】

講義時に個別に指定する。

卒業論文

担当教員 廣瀬 牧人

配当年次 4年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

卒業論文

担当教員 大井 肇

配当年次 4年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4.0

【授業のねらい】

開講当初はハードウェア、ソフトウェア等に関する基本的な知識の修得を目指し、その成果として各種情報処理関連資格の取得を義務付ける。またこうした情報処理に関する基本的な知識の上に、避けては通れないモノ作り(プログラミング・スキルの修得)にも重点を置きながら、実際に100%作り込まなければ動かないシビアなシステム開発を体験してもらいたい。卒業研究のテーマに関しては、個人の興味ある研究対象を優先的に割り当てるので、是非とも積極的な研究姿勢を見せてもらいたい。

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

本講義受講のためには、「情報概論」、「プログラミング理論」、「プログラミング演習」の履修を条件とする。

【評価方法】

出席、受講態度、レポート、各種情報関連資格の取得状況、卒業研究論文、卒業研究発表会におけるプレゼンテーション等を総合的に判断する。

【テキスト】

適宜講義内容に最もふさわしいと思われるテキストを紹介していく。テキストはかなりの冊数になると思われるが必ず購入するようにしてもらいたい。

【参考文献】

自ら進んで考え、自分のレベルに合ったものを必要に応じて購入するようにしてもらいたい。

卒業論文

担当教員 平良 直之

配当年次 4年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4.0

【授業のねらい】

調査結果・検討成果を文書として取りまとめる技能やこれらを効果的に報告する技能は、社会人として企業に勤める上でも必須の能力と言える。本講義では、論理的な考察能力、文書作成能力、プレゼンテーション能力の修得を目指す。

【授業の展開計画】

本講義では、専門演習Ⅰ～Ⅳで取り組んだ内容を基に、卒業研究として発展させ取り纏めることを目的とする。具体的には、第1回目の講義で担当を決め、各担当者の進捗報告をもとに議論し論文としてまとめる。

【履修上の注意事項】

- ①卒業論文のテーマは、情報処理システムに関連する内容とする。
- ②本講義では、進捗報告を踏まえて講義を進めていく。したがって、講義外でかなりの時間を費やすことになるので、この事を十分理解した上で受講を希望すること。
- ③出席状況を重視し、講義の3分の1以上欠席したものは原則として不可とするので注意すること。

【評価方法】

卒業論文の内容および出席状況により評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

未定（第一回目の講義の際に連絡します）。

卒業論文

担当教員 池宮城 尚也

配当年次 4年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4.0

【授業のねらい】

専門演習Ⅳで行なった卒業研究をベースに、卒業論文を完成させることが目的である。報告した研究を論文として完成させるには、ある程度の内容が仕上がった場合でも、さらに工夫を加える必要がある。具体的には、分析方法の再検討に加え、資料の追加、構成・文章化・図表作成の工夫といった作業が挙げられる。これらの作業を通じ、研究内容を発展させてもらいたい。なお、就職活動や公務員・教員試験の時期と重なるため、これらの指導も適宜行なう。

【授業の展開計画】

- (1) 論文タイトルおよび論文構成の最終決定
- (2) 利用データ・分析内容の再検討
- (3) 参考文献・資料の再検討と追加
- (4) 図表作成の工夫：データを利用した分析と理論
- (5) 研究成果の文章化

【履修上の注意事項】

- (1) 卒業論文として完成させるには、専門演習Ⅳで行なった研究内容を、さらに発展させる労力が必要なことを自覚すること。
- (2) 就職活動と称して、安易に欠席しないこと。

【評価方法】

卒業論文の内容により評価する。

【テキスト】

- [1] 浅利一郎・土居英二他『第3版 はじめよう 経済学のための情報処理』日本評論社，2008年。
- [2] 滝川好夫・前田洋樹『Excelで学ぶファイナンス④ 金融モデル実用の基礎』金融財政事情研究会，2006年。

【参考文献】

- [1] 小川英治・地主敏樹・藤原秀夫他『金融論』有斐閣，2007年。
- [2] 釜江廣志・北岡孝義他『証券論』有斐閣，2004年。

卒業論文

担当教員 又吉 光邦

配当年次 4年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4.0

【授業のねらい】

卒業論文では、3年次までに進めた自ら研究を文書でまとめ、提出しなければならない。各学生個人が、それぞれ独立の卒業研究をもとに卒業論文作成を遂行する。

【授業の展開計画】

4月～5月：3年次までの卒業研究のレジメ作成を行う。

6月～7月：作成したレジメを基に中間発表会を行う。

9月～10月：卒業研究の仮報告書（仮卒業論文）を作成。提出。

11月～12月：卒業研究の本報告書（本卒業論文）を作成。提出。

1月：卒業論文の最終提出と卒業論文発表会。

【履修上の注意事項】

言葉づかい。礼儀。

【評価方法】

セミナー出席10%、卒業論文90%（卒論発表、卒論中間発表含む）。

【テキスト】

それぞれの卒業論文のテーマに沿ったものを自ら、探してください。

【参考文献】

それぞれの卒業論文のテーマに沿ったものを自ら、探してください。

卒業論文

担当教員 洲鎌 博克

配当年次 4年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】